

令和3年4月22日
防衛大学校同窓会機関紙

Vol.28

小原台だより



電子版第6号

CONTENTS

■防衛大学校同窓会長からのご挨拶	3
■会長ルーム・活動録	
令和2年度水泳競技会の激励	5
■防衛大学校関連	
新副校長に聞く	7
新幹事に聞く	9
令和2年度顕彰碑献花式への参列	12
第68期期生会設立総会	13
■同窓生は今	
第64期生に聞く	17
今人生、男盛り(第26期生)	26
■活動報告	
令和2年度 防衛大学校同窓会代議員会	37
■地方支部	
令和2年度徳島地区支部総会等成果について	47
宮崎地区支部だより	49
■連絡事項	
令和元年度防衛大学校同窓会決算書	50
令和3年度期生会長・代議員名簿	52
令和3年度同窓会本部役員名簿	54
令和3年度地域支部等役員名簿	55
令和3年度事務局員名簿	57
令和3年度小原台事務局員名簿	58
会則等改正(防衛大学校同窓会ホームページの管理運営及びサイバーインシデント対応に関する細則)	59
■編集後記	63

■防衛大学校同窓会長からのご挨拶

防衛大学校同窓会会員の皆様へ一言ご挨拶申し上げます。

本年4月、岩崎前会長の後を受け、防衛大学校同窓会会長を拝命しました岩田(第23期、陸上要員、電気工学、少林寺拳法部、徳島県出身)です。微力ながら、母校の充実・発展、同窓会会員相互の親睦交流のため尽力して参る所存ですので、宜しくお願い致します。



さて、防大では、本年3月に第65期生が卒業し、4月には第69期生が入校しました。従来であれば、多くのご来賓が見守る中、盛大かつ凛々しく式典が挙行されるところでありますが、昨年同様、新型コロナウイルスの影響を受け、ごく一部限定された来賓の方々と学校関係者が出席する中での開催となりました。もちろん卒業式には、菅総理が来校され、卒業生に対して訓示をされております。

また卒業式にはホーム・カミング・デー(HCD)行事として第21期生が、そして入校式にはホーム・カミング・デー2(HCD2:入校から60年経過した卒業生)行事として第8及び第9期生が、学校長からご招待頂く運びとなっておりますが、式典規模の縮小により2年連続して中止となりました。両行事共に、同窓生の親睦交流及び母校と同窓生を繋ぐ伝統行事として継承されていく中での中止であり、大変残念に思うところです。当該期であります第21期生及び第8・9期生の先輩方は、これまで精力的にご準備をされてきたところ、貴重な機会を失ったことを、私以上に残念に思っておられることと推察致します。学校側及びそれぞれの期生会のご判断により、来年は第22期生、及び第8期～10期生が対象になるとお聞きしております。来年こそは、桜花爛漫の中、本科及び研究科学生とともに、母校において同窓会会員相互の絆が深まることを願っております。

同窓会の現状について少し触れたいと思います。防大同窓会の会員数は現在、約2万5千700名(現役約1万2千200名、退職約1万3千100名、留学生約400名)であり、これまでは逐年OB数が増加する傾向にありました。一方で令和元年5月に第1期生会が、令2年12月に第2期生会が、令和3年3月に第4期生会が、それぞれ組織的な活動に終止符を打つことが報告されたことから、同窓会の会員数及び現役とOBの比率もほぼ一定値に落ち着く時期に達したという認識を持っております。

同窓会の活動としては、母校の充実・発展への寄与を主体とし、併せて同窓会会員の親睦交流に資する諸施策を継続しております。昨年度は、新型コロナウイルスの影響により、支援対象となる防大での諸行事・訓練等が中止または縮小を余儀なくされたため、ほとんどの支援事業の実施が困難になるとともに、同窓会会員相互の親睦事業も全て中止することとなりました。さらに、同窓会代議員会の開催に関しても2年連続での中止を余儀なくされ、郵送処置による議案の議決に委ねたところであります。これらの判断・処置は、国民一人ひとりが耐えながら感染対策に

集中し、その行動を自粛している間は当然のことであり、また防大同窓会活動が起因となり感染者を発生させることはあってはならないことと認識しております。

防大は、これまで國分学校長の先見性ある卓越したご指導により、時代の変化に応じた改革が進められており、まさに「世界に誇れる士官学校」へと進化しつつあります。学業、校友会活動及び学生舎生活の充実を基より、多くの防大生の国外留学や国際士官候補生会議の主催など、国際的視野を広げつつ国際交流の拡大や信頼醸成にも貢献しております。昨年はこのような取り組みの実施も叶わない状況となりましたが、ワクチン接種の拡大等によるコロナ感染の収束に伴い、学校運営も逐次従来の充実・発展の過程に戻れることを期待しております。

同時に同窓会活動もこれに併行して活発化し、母校の充実・発展に寄与するとともに、会員相互の親睦交流が盛んになることを願っております。特に、昨今の現役の活動においては、日米同盟の更なる強化はもちろん、日米豪印戦略対話(QUAD)を始めとする国際的連携強化の推進など、軍事的な国際舞台においてリーダーシップを取り得る幹部の育成が強く求められているものと認識しています。このような観点においても、今後同窓会としてさらに寄与できる施策に関しての検討を進めていきたいと考えております。

当然のことながら、同窓会の活動は会員皆様の「母校のため、後輩のため」という熱い思いに基づくご支援ご協力がなければできません。我々同窓会役員一同は、学校長始め防大の関係者、そして会員皆様方のご意見を賜りながら尽力して参る所存です。どうか会員の皆様方におかれましては、より一層の同窓会へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ、甚だ簡単ではありますが、会長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和3年4月5日

防衛大学校同窓会長 岩田 清文

■会長ルーム・活動録

◇令和2年度水泳大会の激励

2020. 10. 20

令和2年9月4日(金)、岩崎同窓会長は令和2年度防大水泳競技会の激励を行いました。当日は、晴天、猛暑、無風、水泳競技会として絶好のコンディションで競技が開催されました。

今年は、例年行われていた大隊対抗16人リレー、水球などの競技を中止し密を避けた団体戦7種目、個人戦6種目で行われるとともに、競技運営、応援の統制など十分に新型コロナウイルス対策がとられた競技会でした。

午前中は個人戦予選が行われ、午後には國分小学校長を始め齊藤副校長、香月副校長、梶原幹事とともに岩崎同窓会長が団体戦・個人戦決勝に臨む学生の力強い泳ぎを観戦しました。

競技会団体戦は、8年ぶりに第2大隊が優勝し、準優勝第1大隊、第3位第3大隊、第4位第4大隊の結果となりました。

表彰式では、國分小学校長が団体戦の表彰を行い、岩崎同窓会長が個人戦優秀学生に同窓会寄贈メダルを授与しました。



選手の力泳と学生の応援



國分小学校長、岩崎同窓会会長観戦



団体戦リレーのスタート



接戦のリレー中継

岩崎同窓会長は、「2月末以降、国内においては多くの新型コロナウイルス感染者が伝えられています。しかしながら、防衛大学校においては2千人の団体生活、学業・訓練・校友会活動を行いながらも、校内におけるクラスター発生はもとより一人の感染者もなく今に至っています。これは、防衛大学校の対策・指導の徹底と、各学生の自覚ある行動が成し得たものとして敬意を表します。また、本日の競技会に全力で臨む学生の姿に接し非常に頼もしく思いました。今後も頑張ってください。」と同窓会を代表して挨拶・激励しました。



國分学校長より優勝した第2大隊への表彰



岩崎同窓会長より個人戦優秀者への表彰



岩崎同窓会長からの激励



表彰式学生整列

(27期陸 星指 隆)

■防衛大学校関連

◇新副校長に聞く

2020. 11. 25

「副校長に着任して」

防衛大学校副校長(企画・管理担当)

齋藤 和重



令和2年8月5日付で防衛大学校副校長(企画・管理担当)を拝命しました、齋藤と申します。岩崎茂会長をはじめ、防衛大学校同窓会の皆様におかれましては、日頃よりご理解・ご協力を賜り、また、校友会をはじめ学生活動や各行事において多大なるご支援をいただき、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

防衛大学校副校長(企画・管理担当)は、平成17(2005)年8月に石井道夫元防衛研究所長が初代として着任され、私で11代目となりました。入庁してから約30年間、防衛省職員として勤務し、他省庁への出向も含め多種多様な業務に従事して参りましたが、防衛大学校での勤務は初めてのことであり、将来幹部自衛官となる者の育成に携わるということで身が引き締まる思いです。國分学校長が示されている「すべては学生のために」という業務遂行における基本理念のもと、副校長として学校長を支え、主として予算や施設整備などの行政事務を統括し、校務全般の円滑な運営のための環境整備という面から、「世界一の士官候補生学校」の実現に向けて、微力ながら精一杯努力をして参りたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、世界一の士官候補生学校を目指す、あるいは、もっと平板な言い方としては防衛大学校の更なるステイタスの向上と一口に言っても、このような大いなる目標を達成することは到底一朝一夕でできるものではなく、また、即効性のある施策も見当たらないものではないでしょうか。大きな目標の実現のためには、日々の努力とその積み重ねがあり、こうした営為が後で気づけば、新しい伝統になっている、そういうものだとは私は考えております。当職としては防衛大学校のこれまで培われてきた歴史と伝統を十分尊重しつつも、そうした歴史と伝統の重みがともすれば前例踏襲主義、思考停止の言い訳とならないよう十分注意を払いつつ業務を進めていきたいと自戒しております。この点、さきほど私は防大勤務が初めてと申し上げましたが、このような立場であるが故に、同僚やスタッフから「もう少し防大の歴史と伝統を尊重して下さい」と苦情を言われるぐらいでちょうど良いのではないかと考えています。

他方、世の中に目を向けますと、ITを中心に急速な技術革新が起きており、業務や生活様式にも変化を及ぼしております。また、ライフスタイルの変化や世代間の意識の変化も大きくなっていると感ずいます。このような大きな社会の変化の中、大学教育の在り方についても様々な議論がなされていると承知しております。このような流れの中で、現在、学内では防衛大学校創立100周年を見据え、学校長を筆頭に「さらなる高みプロジェクト」が進行中です。平成25年に開始された、多様化・国際化する任務に対応できる人材の育成、防衛大学校の地位向上を目標とした「新たな高みプロジェクト」から、さらにパワーアップしたより質の高い人材育成・教育訓練の充実を目標として、活発な議論がなされています。内容は多岐にわたり、教官をはじめ教職員の間で様々な検討がされており、その中で浮上する課題を解決していくには、教官・自衛官・事務官そして学生が互いに協力し合わなければ解決は困難であると考えます。このプロジェクトにおける目標を達成し防衛大学校を次の段階へ進化させるため、國分学校長のご指導のもと事務部門の責任者である副校長(企)として、校内はもとより本省等と調整して参りたいと考えております。

ところで、世界中で感染が拡大し未曾有の事態となっている新型コロナウイルス感染症について、本校もいろいろな面で多大な影響を被っております。コロナ感染症が流行し始め、3密を伴う様々な行事や訓練・競技会の実施に影響があり、感染拡大防止のため中止、日程変更や参集者の制限などを余儀なくされている次第です。この点同窓会の皆様方にはご迷惑、ご心配をおかけしており、この場を借りてお詫び申し上げます。校内では「新しい生活様式」の徹底に務めており、窓口業務がある部署については飛沫防止シートを設置するなど、様々な対策を講じております。学生は集団生活をして一斉行動を旨としているため、スペースを確保するなどのやり繰りや発熱症状のある学生の取り扱いなど、苦慮した面もありますが、教職員・学生の努力の結果、幸いにも未だ校内での感染者は一人も出ておりません。まだまだ油断のできない状況が続くと見込まれますが、今後も気を抜かず感染対策を継続するとともに、入試シーズンも控え、更に徹底に努めて参りたいと考えております。

なお、ともすれば湿っぽい話が多い中で平常化したものもあります。当初4月に受け入れ予定であった海外留学生が予定通りに渡日できない状況が続いておりましたが、こちらについては、9月に国費で学費等を支給する外国人留学生の入国については規制が緩和され、無事に順次受け入れを再開することとなりました。留学生が母国で待機中の期間中は、担当教員からオンラインで日本語教育を行ってもらうなどの労をとってもらったことを付言しておきます。

最後になりますが、将来、国防の中心となって活躍していく防衛大学校学生の育成に携わる機会を得ましたことを大変光栄に思います。防衛大学校のさらなる発展のため、今後もお力添えいただくことが多々あると思いますので、変わらぬご理解・ご支援をいただけますと幸いです。学生をはじめ自衛官・教官が十分に訓練・教育・研究に打ち込める環境づくりをし、卒業していく学生が将来誇りと思えるような防衛大学校を作り上げるため精一杯努力していきますので、防衛大学校同窓会の皆様におかれましては、改めてご指導・ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

◇新幹事に聞く

2020. 11. 25

「小原台の今 ～ コロナ禍と学生、そして将来に向けて ～」

防衛大学校幹事

陸将 梶原 直樹 (32期・陸上)



【注】「防衛大学校幹事」は、令和3年4月現在「防衛大学校副校長(自衛官)」です。(編集者)

はじめに

本年8月25日付で第52代幹事を拝命いたしました、本科第32期生の梶原です。本科卒業後、まだ3等陸尉だった頃、研修生として短い間お世話になって以来、約30年ぶりの小原台になります。将来、自衛隊の中核を担うであろう学生を目の前にすると、自然と背筋が伸びる感じを覚えますし、若き日の自らの成長を見守ってくれた母校に対して、何か自分にできることはないかとの思いを深める毎日です。微力ながら努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この度は、寄稿の機会をいただきましたので、小原台の近況として、新型コロナウイルスへの対応と将来に向けた取り組みについてご紹介させていただきます。

コロナ禍における学生の状況

はじめにお伝えしておきたいのは、コロナ禍の制約の中においても、学生たちは日々前向きに過ごしているということです。もちろん、今日に至るまでには、学校全体としても様々な課題に直面し、試行錯誤しながら前に進んできたというのが実情と思います。しかしながら、現時点においては概ね落ち着いた環境の中、校務が運営されていると思います。また、現時点において、新型コロナウイルス感染が校内で発症した例は一つもありません。これは、学生が自覚ある行動を心掛けている証左と言えるでしょう。

それではまず、コロナ禍が開校記念祭に及ぼした影響についてご紹介します。残念ながら、令和2年度の開校記念「祭」は中止となり、開校記念「行事」として実施されることとなりました。すなわち、部内外のご来賓や一般の来場者をお招きせず、校内行事として観閲式等一部のみに実施するというものです。これに伴い、開校祭を機に母校訪問を楽しみにされていた卒業生、特にホーム・ビジット・デー(HVD)にあたっていた44期生の皆様には、せっかくの機会がなくなってしまい、申し訳なく思います。

また、棒倒しについては、学生はもちろん学校長以下の職員も、なんとか実施できるよう様々な検討・調整を尽くしましたが、最終的には、感染リスクをコントロールできる合理的な対策が難しいとの判断から、中止という結論に至りました。近年ネット配信され、毎年楽しみにしている方も多い「開校祭の華」であり、何よりも学生にとっての貴重な成長の場である棒倒しが実施できないことは、私自身、非常に残念に思っているところです。

次は、コロナ禍における学生の日常についてご紹介します。一言で言えば、緊急事態宣言発令当時に比べ、学生の毎日はかなり落ち着いたものになっています。以下、いわゆる三本柱(学業、校友会活動及び学生舎生活)の順で述べます。

まず、学業についてですが、一般の大学ではまだ多くの授業がリモートで実施されている中、防大では基本的にはすべての授業が対面形式で行われています。もちろん、マスクの着用や着席位置の指定・分散、換気の確保といった対応はしっかりと取られています。本館の幹事室からは、毎朝、マスク姿の学生が課業行進で教場に向かう姿を目にすることができます。訓練についても、実施要領を工夫して感染防止の処置をとりつつ、要すれば計画を修正して実施されています。

校友会活動については、入浴や食事における「密」をできる限り避ける観点から、運動部を大きく2つのグループに区分し、それぞれのグループを互い違いの曜日に活動させるようにしています。毎日でも活動したいと思っている熱心な学生にとっては、ややストレスの溜まる状況かもしれません。対外試合は、それぞれの競技団体の方針に沿って逐次再開されており、近いうちに、各部のOB会などを通じて成果が伝えられるものと思います。生活面における最大の変化は、一斉喫食の取り止めだと思います。学生食堂に2,000名が集まる昼食風景は防大ならではのものです。現在は「密」を避けるため自由喫食になっています。午前中の授業を終えた学生は、三々五々食堂を訪れて食事を済ませていきます。昼休みの時間的余裕ができるのは、学生にとってはうれしいことかもしれません。

学生舎生活全般については、日夕点呼が、中隊の全小隊を中央ホールに集める形から、各部屋前の廊下に整列させて小隊ごとに把握する形に変更されているほか、大きな変化はないようです。ただし、外出についてはまだ制限されている部分が多く、外出先や行動予定の事前申告が求められていたり、特別外出(外泊)が認められていなかったりしています。(特別外出については、近いうちに緩和される方向で検討が進められているようです。)

以上のように、学生たちはコロナ禍においても元気に過ごしていますが、様々なストレスを受けていることは確かであり、今後も学生の士気を高めるべく、善導に努めていきたいと思っています。

将来に向けた取り組み

さて、最後に、将来に向けた防大の取り組みの現状について、簡単にご紹介したいと思います。現在、國分学校長のイニシアティブの下、「さらなる高みプロジェクト」による校内検討が実施されています。これまでに、開校 100 周年(2052 年)に向けた防大の在り方として、「防大ビジョン(100 年ビジョン)」がまとめられました。同ビジョンは、防大は今後とも「自衛隊のリーダーを育てる日本唯一の最高学府」として、「世界一の士官学校」を目標に、「知・徳・体の調和のとれた人材を育成する」とし、目指すべき人物像として、

『国際社会の平和と安全に寄与する国際感覚豊かで幅広く多角的な視野を持った人材』

『自主自律の精神と日本の美徳を身につけた使命感と倫理観にあふれる人材』

『最新の学問研究を学び、バランスの取れた科学的思考とテクノロジーを理解する能力を備えた伸展性のある人材』

の三つを掲げています。今後は、同ビジョンを具現すべく、「知・徳・体」の向上、先端科学技術への対応、基礎教育の充実、新たな防衛学・訓練の体系などの視点から検討を深めていく予定です。

一方、重要なのは、こうした校内の議論を校外に発信し、防大の現状や課題を広く認識していただいた上で、防大の在り方をめぐる防衛省内の議論を活性化し、具体的な成果につなげていくことです。幸い、省内においてそのような議論の場が設定される動きもあり、この機会を逃さぬよう積極的に取り組んでまいります。

おわりに

小原台に戻って早くも二か月が経とうとしています。母校、そして現在と将来の学生のために自分は何をすべきか、何ができるか、自問自答しながら勤務してまいります。皆様のご指導とご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

◇令和2年度顕彰碑献花式への参列

2020・12・22

令和2年11月13日(金)、令和2年度顕彰碑献花式が実施され、同窓会長代理として小原台事務局長の中澤空将補が参列しました。

顕彰碑は、任務あるいは校友会活動において志半ばで殉職された、106柱に及ぶ卒業生あるいは在校生に対し、国の存立を担う崇高な職務に殉じられた遺徳を顕彰するため、防衛大学校創立30周年である昭和57年に防大同窓会から人文科学館前の現在の位置に寄贈・設置されたものです。

顕彰碑献花式は、例年であれば開校記念祭に合わせて実施されており、執行者である学校長を始めとする学校関係者に加え、卒業生の各同期代表のほか、学生からも儀仗隊、吹奏楽部が参加して学校を挙げて実施されているものです。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止への対応のため、例年の約3分の1に規模を縮小し校内関係者のみで実施されました。

式においては、国歌演奏に続いて黙とうが行われ、学校長からの「顕彰の辞」に続き、同窓会長代理として中澤小原台事務局長が「顕彰の辞」を代読し、哀悼の意を捧げました。その後、学校職員である第31期生、第35期生、第43期生を含む参列者により、献花が行われました。



國分学校長による顕彰の辞



中澤小原台事務局長による顕彰の辞
(会長の代読)



学校職員(43期生)による献花



顕彰碑(学生による自主的献花あり)

(小原台事務局 43期海 三宅由晃 記)

◇防衛大学校第68期期生会設立総会

2021. 3. 15

第68期期生会として、総員459名（うち女子57名、留学生17名）の中から、期生会長に第131小隊佐藤総太郎貴久学生が選挙により選出され、2021年3月10日（水）、防衛大学校において設立総会が開かれました。

コロナ禍の中、感染対策に万全を期し、同窓会から畑中裕生副会長が出席し祝辞を述べました。

総会に先立ち、畑中副会長は、國分良成学校長、斎藤和重副校長、香月智副校長、梶原直樹幹事、保科訓練部長及び小原台事務局長北川空将補と懇談しました。学生の近況から50年後ここから見える景色はどうなっているのかなど様々な話題で盛り上がりました。学生の考え方、学生との接し方、授業でのスマホの活用、昔とは違うコミュニティの作り方、やり方など、まさに今からは彼ら彼女らの時代だということを感じる話題で多いに盛り上がりました。

設立総会は記念講堂において開催され、佐藤期生会長以下9名の役員紹介に引き続き、期生会長の所信表明が行われました。

期生会長は、コロナ禍と防衛大学校への入校で生活は一変しましたが、その急激な変化の中で、柔軟に対応してきた第68期生の代表として、次のように所信を述べました。

「皆さんは釣り鐘の音を聞いたことがありますか？ 釣り鐘を叩くとその内部では様々な音がいろんな方向から反響し合い重なり合いますが、外に出てくる音は澄み切った一つの音になります。組織内での激しい論争や意見も最後には一つの方向にまとまった一つの音になる釣り鐘のような理想的な組織に期生会をしたいと思います。また、その音が第68期の誇りとなれるよう釣り鐘を守る鐘楼のような期生会長になる所存です。」

今回は新しい企画で、第68期生のこの一年間の出来事を写真のスライドで綴った紹介映像を放映しました。同期で乗り越えてきた一年を振り返ることにより、期生会の一員であることを認識出来たものと思います。



68期設立総会の開催



期生会役員9名の紹介



佐藤期生会長の所信表明



68期紹介映像放映

國分学校長は、祝辞において次のように述べられました。

「防衛大では一般大とは比べものにならないくらいに厳しい生活を送ってきたと思います。釣り鐘の話を使わせてもらうと、コロナ禍も加わり釣り鐘の中では、いろんな音が響き渡り、外からも声や音が響いていました。そういう状況で皆さんはよく耐えて頑張ってきました。その努力に学校を代表して、お礼を言いたいと思います。

第68期生は普段よりも多くの試練を受けたと思います。その中で君たちは残る決心をした。防大生の多くの人には悩む。どんなに偉くなった人でも『防衛大を辞めたいと思ったことがある。悩んだことがある。』と言います。

ある卒業生はこんなことを言っていました。『防衛大はすごい大学なんです。防衛大は必ず一度は辞めることを考える大学なんです。必ず自分自身に問うものなんです。その試練を乗り越えた者が卒業生です。そういう学校はありますか。自分は目立たない学生でしたが、ずっとそう思っています。』防大はそんな学校です。

諸君らはそれぞれ個性がある。一人一人の個性を大事にしてほしい。

防衛大のすごさはその個性を磨けることです。釣り鐘の話を応用すれば、自分がどういう味を出すか。自分がどんな味を提供出来るか。それぞれの味を出し合って全体として美味しい味を作り上げる。ちゃんこやブイヤベースも混ぜり合った方が美味しいものになるでしょう。自分の味はどこに、個性はどこに、得意技はどこに、それを考えてほしい。これだけ多くの同期がいると人は比較してしまう。皆との比較の中で自分はどのようにして駄目

なんだと思ってしまう。アイツはすごいと思う。みんなそうなんです。僕もそうでした。そういう中でいい味を出してほしい。与えられた時間をいい味を出すために個性を磨いてほしい。試練を乗り越えてほしい。1年生は受け身でしたが、これからは、主体的に役割を考え、動き出してください。そのためには知識と教養を蓄えることです。適切な判断が出来るようになるためです。更に、国際性を身につける手段として英語は必須です。身につければ、得することばかりでしょう。

そして、同期がお互いに切磋琢磨の中で自分の個性を磨き磨かれライバルとして仲間となることです。いい仲間を作ってください。」



國分学校長祝辞

引き続き、畑中副会長が祝辞において次のように述べました。

「第68期生の皆さんはコロナ禍を乗り越え淘汰され生き延びた精鋭と学校長からお聞きしました。最強の期と言えるでしょう。ただ、皆さんの中には同期と言ってもピンと来ない人もいると思いますが、私も実はそうだったのです。当時、こうした設立総会をやった記憶もなく、それは、いつも同期と24時間4年間一緒に学生生活に忙殺されていたからではないかと思います。教務や生活のこと、校友会のことで悩んだ時、国際問題、防衛問題、将来のことで考えた時、いつも、うざいうるさいくらい常に一緒でした。しかし、卒業して部隊に行くで一変します。悩みがあっても同期はほとんど傍にいらなくなります。その時に改めて同期の大切さを実感します。

部隊での業務の中には、部隊間の調整というものがあります。電話だけでは、相手が誰でどんな人かも分からず、なかなか調整がうまくいかないこともしばしばありました。しかし、相手が何かの話で同期生と分かると『おい。おまえ。』の感覚で、スムーズに仕事が進むことは一度だけのことではなかったと記憶しています。同期というのはそうしたものです。同期は心の集まりです。それを束ねる集まりが同期生会です。「魂と魂がぶつかり合い、せめぎ合い、助け合う団結のある同期を築いてほしい。」



畑中副会長祝辞

設立総会の最後は、学生歌を斉唱して締めくくり、今回の母校支援を終了することが出来ました。

(29期陸 坂間 輝男 記)

■同窓生は今

◇第64期生に聞く ～陸自一般幹部候補生(1)～

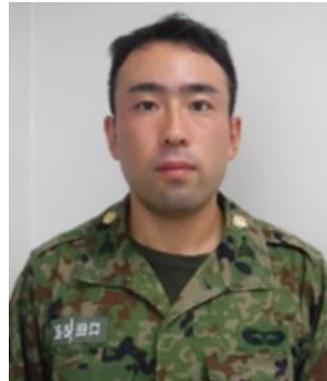
2020. 12. 3

「幹部候補生学校の生活について」

陸上自衛隊幹部候補生学校

第3候補生隊第5区隊

一般幹部候補生 陸曹長 田口愉宇斗



現在、陸上自衛隊幹部候補生学校第101期一般幹部候補生課程(防衛大学校、一般大学等出身者)に入校中の防衛大学校本科第64期卒業生、建設環境工学科、銃剣道部、田口愉宇斗です。

私たち64期生が防衛大学校を卒業し、期待と不安を胸にこの幹部候補生学校に着校してから、早くも4か月が経過しました。幹部候補生学校では、幹部自衛官として国防の中核をなす人材となるために、防大・一般大出身を問わず同期で切磋琢磨しあいながら修学する日々を送っています。しかしながら私自身、実際にこの幹部候補生学校に着校するまでは幹部候補生学校がどんなところなのか、何をするのか、といったことについてほとんど知らず、少なからず不安を抱いていました。

そこで今回このような機会をいただき、後輩の皆さんに対し、私が自身の経験を通じて考える「幹部候補生学校とはどんなところか」を紹介し、これを踏まえて「防大で大切にしてほしいこと」について述べてみたいと思います。

まず初めに、幹部自衛官には4つの役割があります。それは指揮官・幕僚・教育者・戦闘員の4つです。ここ幹部候補生学校では、その中でも初級幹部、小部隊指揮官としての資質の涵養及び必要な基礎知識、技能の修得を目標として日々の訓練や修学を行います。具体的には実員指揮に重点をおいた各種訓練、戦術や戦史といった幹部自衛官として必要な各種識能教育、戦闘員として必要な体力・気力を磨く高良山登山走や藤山武装障害走といった体育訓練、幹部自衛官としての責任感、規律心を養う日々の生活、係業務等です。このように幹部候補生学校では、教育の機会が非常に多く、大きく成長できる場所です。

私は、幹部候補生学校は「求めれば与えられる場所」と言えると思います。自らが目標とする理想の幹部像を持ち、日々それに向かって努力していくことで自衛官として、人として大きく成長することができます。また幹部候補生学校は厳しいところなんじゃないのか、と不安に思う人もい

ると思います。たしかに幹部候補生学校の教育においては厳しいことが多々あります。しかし経験豊富な教官・助教が熱心に指導をしてくれます。また厳しいことは同期で支えあうので何も心配はいりません。

次に、防大で大切にしてほしいことですが、それは「目標を持つこと、持ち続けること」と「同期を大切にすること」の2点です。

1点目の「目標を持つこと、持ち続けること」についてですが、防大生で具体的に理想の幹部像を持っている人はどれくらいいるでしょうか。私自身、防大時代に具体的に理想の幹部像があった、とは言い切れません。防衛大学校での生活も、ここ幹部候補生学校に負けないくらい成長の機会にあふれています。しかし、それに触れるかどうかは自分次第です。目標を持たなければそういった成長の機会に触れることなく、日々を過ごしてしまうこととなります。漠然としたイメージでもいいので、こういう幹部になりたい、この人みたいな幹部になりたい、という目標を持って日々を過ごしてほしいと思います。

また、立てた目標を持ち続けることも大切です。防衛大学校での生活は4年間と長く、また日々の生活、教育に忙殺されて自分の目標を見失ってしまいがちです。自らの立てた目標、理想の幹部像を持ち続け、日々生活してほしいと思います。幹部候補生学校での教育の基礎には、防衛大学校での教育訓練があります。また前述のように、幹部候補生学校は「求めれば与えられる場所」です。自らの目標、理想を持ち努力すれば周囲は全力でサポートしてくれます。防大卒業までの間、目標を持ち日々の成長の機会を逃さずに生活していきましょう。

2点目は「同期を大切にすること」ということです。防大と幹部候補生学校で大きく異なる点は同期についてです。幹部候補生学校では防大出身者のほか、一般大出身者も同期として共に切磋琢磨していくこととなります。確かに一般大出身の同期は、最初は不慣れなことが多く、頼りなく感じることもあります。しかし防大には防大の、一般大には一般大の良い点があります。また1か月、2か月と過ごしていくうちに、一般大出身者も自衛官として、戦闘員として頼れる存在となっていくます。自衛隊の任務は決して1人では達成できません。横にいる同期や同僚との助け合いが、任務の成否を大きく分けます。何も同期は一緒に生活するだけの存在ではありません。心身的に大きな負荷がかかる訓練においても、ともに助け合い、一丸となって進むのが同期です。

また、自分が誤った際、正してくれるのもまた同期です。自衛隊において同期はまさに運命共同体とも言えます。防大の上級生・下級生のような上下関係なく支え、励まし、正しあう同期はまさに人生の宝です。まずは防衛大学校での生活から、同期というかけがえのない存在を大切に、横のつながりを強めていってほしいと思います。

以上、防大において大切にしてほしい事項2点について書きましたが、私の経験が後輩の修学の助けとなれば幸いです。

◇第64期生に聞く ～陸自一般幹部候補生(2)～

2020. 12. 3

「幹部候補生学校をいかに修めるか」

陸上自衛隊幹部候補生学校

第4候補生隊第4区隊

一般幹部候補生 陸曹長 中谷 裕貴



現在、陸上自衛隊幹部候補生学校第101期一般幹部候補生(防衛大学校、一般大等出身者)課程に入校中の防衛大学校本科第64期卒業生、中谷裕貴候補生です。

我々64期生が、3月28日に期待と不安を胸に幹部候補生学校(以下、OCSと言う。)に着校し、早半年が過ぎようとしています。防衛大学校と様々な面で異なるOCSでの生活は、当初こそ戸惑いがありましたが、区隊長を核心とする区隊指導部からの日常起居、教育訓練での指導を通じて、日々自身の成長を自覚し、将来の理想像を抱くまでになりました。それを成し得たのはOCSの特徴である、熱い資質教育にあります。初級幹部として必要な6大資質、即ち「使命感」、「責任感」、「判断力」、「実行力」、「品性」、「体力・気力」が涵養すべきものとして定められています。

その教育の場は多岐にわたり、指揮の実践を基礎とする戦闘・戦技訓練、藤山武装障害走、高良山登山走等の体育訓練、果ては上司、同期とのコミュニケーション、自身の身なり、立ち居振る舞い等の日常起居にも及びます。その全てが候補生の成長を強く促し、幹部自衛官としてふさわしい資質の育成に寄与しているのです。防衛大学校においても学生綱領という伝統ある精神的基盤がありますので、本稿を読んだ今から理想とする指揮官像を抱きつつ、生活の些細な機会に自己を顧みて下さい。

本稿では、その多岐にわたるOCSでの教育においても、特に意識すべき重要なことと、防衛大学校においても共通する事項に焦点を絞り伝えます。

1点目は「指揮官としての将来像の意識」です。OCSでの教育は濃密であり、それゆえの多忙によって目的意識を失ってしまうことがあります。そのような時こそ、自身が多くの部下を持つ指揮官になるというビジョンを持たなければなりません。区隊指導部等の人格の陶冶された自衛官の方々を模範としながら、どのような指揮官を目指すか、そのためには具体的にどのような行動をすべきかということを考えることによって、教育の成果が非常に大きくなります。

加えて、教官や同期の指揮動作を追体験し、冷静に分析して自身ならどう指揮するかを意識する。これにより、指揮官としての資質がさらに成長します。防衛大学校においても、自身の所属する組織に尊敬できる指導教官が数多くいると思います。OCS 入校前から意識してみてもはどうでしょうか。

2 点目は「挑戦」です。指揮官たる者、自ら率先して部隊を率いる積極的な心構えが求められます。OCS の教育訓練においては、自ら行動を起こすべき時、あえて厳しい状況に飛び込むべき時に、周囲の評価を気にしたり、行動後の結果を恐れたりして、渋ってしまうことがあります。そのような時こそ、一歩前へ踏み込む勇気が求められます。

しかし、この勇気は一朝一夕で養われるものでなく、生活の些細な場面における、自身の正義と信条に基づいた行動が決断する勇気を培うのです。一歩前へ踏み込んだ行動、即ち「挑戦」は自身を大きく成長させるだけでなく、周囲の同期をも感化して、区隊の原動力にもなりえます。防衛大学校における学生舎生活や訓練、校友会活動における「挑戦」も、自身の資質を成長させ、OCS での教育を有意義なものにします。

3 点目は「同期と真剣に向き合う」ことです。同期は日常起居、教育訓練、各種練成等すべてを共にする大切な存在です。共に過ごす仲間であるため、本音で話し合える仲間になります。そのため、お互いの長所を高めあう良き関係を築くことが可能になりますが、その一方で、過酷な訓練、困難な課題に直面した際に各々の弱音が露呈します。その際、馴れ合いや甘さ、横暴な態度をとってしまうことは、区隊、相手そして自身にとって非常にマイナスになります。偏ることなく、同期と真剣に向き合った時、初めて団結の根が深まり、組織でしか達成しえない困難な任務の完遂を成し得るのです。

また、自身が追い込まれたときに最も頼れるのが同期であり、防衛大学校、一般大学、陸士、陸曹出身の異なる出自を持ち、さまざまな経歴や価値観を持った尊敬すべき同期からの刺激が自身の見識を広くします。防衛大学校には所属小隊、中隊、大隊、教務班、訓練班、校友会等を共にする多くの貴重な同期がいますので、卒業後も関係が続く同期と真剣に向き合うことが、今後必ず役に立つということをお伝えしたいと思います。

最後に、OCS は候補生が立派な幹部自衛官に成長するための優れた教育体制を保持しています。本稿で伝えます、「指揮官としての将来像の意識」、「挑戦」、「同期と真剣に向き合う」という3点を胸にとどめて防衛大学校、OCS での教育に励むようにして下さい。本稿が、後輩の成長の一助となれば幸いです。

◇第64期生に聞く ～ 海自一般幹部候補生 ～

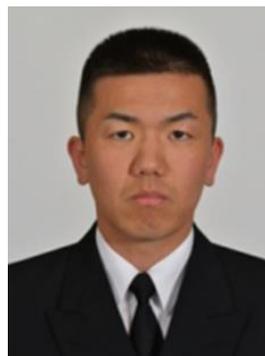
2020. 12. 3

「後輩へのメッセージ」

海上自衛隊幹部候補生学校

第1学生隊第2分隊

一般幹部候補生 海曹長 森田 雄也



防衛大学校同窓会の皆様におかれましては、日々の任務等にご活躍のこととお慶び申し上げます。第71期一般幹部候補生課程を代表し、森田候補生(第64期、国際関係学科、短艇委員会、東京都出身)がご挨拶申し上げます。

さて、私たち64期生が防衛大学校(以下、防大)を卒業し、幹部候補生学校に入校してからすでに半年が過ぎようとしています。入校当初は、期待に胸を膨らませながらも、慣れない生活に戸惑う日々が続きましたが、分隊長をはじめとする教官方のご指導の下、自身の成長が実感できる毎日です。私たち防大64期生は、基本となる教育訓練に加え、分隊点検、古鷹山登山、短艇競技、総短艇競技、遠泳訓練等の各種伝統行事を通じ初級幹部自衛官としての基礎的知識、技能及び資質の習得に向け精進しております。『小原台だより』の投稿に際し、防大生活を振り返り、自身の今後の抱負とともに後輩へのメッセージとして「自ら考えて行動する」ということについて述べさせていただきます。

私は、防大学生時、時代の変化に適応して、学生隊においても多くの変化が起きていると感じていました。当時の私の問題意識は、たとえ様々な変化が生じたとしても、将来、幹部自衛官になるべき者としての変わらない素養とは、何なのかということでした。その答えを出してくれたのが、榎智雄初代防大学校長が建学精神として掲げ、今に受け継がれる「自主自律」の精神でした。

防大生ならば「自主自律」とは、いかなるもので何が私たちに求められているかを一度は考えたことがあると思います。私は、整理整頓や身だしなみ等の自己管理能力を備えた次の段階こそが我々に求められている「自主自律」であると考えました。その段階における重要なことは、「自ら考えて行動できる」ということです。具体的には、明確かつオリジナルなビジョンを持ち、それを実現するための目標設定をし、具体的なアプローチで実行し、その後も改善策を上げていくことであると私は考えました。なぜなら、いざという時、このような能力こそが幹部自衛官に真に必要となるからです。防大では、これらの能力を涵養する機会として、教育訓練、学生舎生活、校友会活動の三本柱の活動があり、これらの活動を通じて自ら考えて行動する場面が数多くあったと思います。

その点は、幹部候補生学校においても変わりません。私は、短艇係として主に分隊の短艇とう漕訓練と短艇運用作業の指揮を任されておりましたが、教官方からの命令はほとんどなく、自ら考えて行動することが求められていました。私は、総短艇競技の勝利に向け、訓練計画を立て、分隊員の Катター の知識と技術を向上させるため試行錯誤を繰り返しながら訓練に励みました。また、分隊員の士気を奮い立たせるため工夫をし、高いモチベーションで訓練を行うことができました。短艇の運用作業では、安全意識を高めるための教育を実施しました。短艇係としての裁量の範囲が広いため、常に先を読んで、周到な準備をし、適切な時に必要な手を打つ機敏さが求められていると短艇係勤務を通じて学びました。

生活面においても同様です。防大1学年時が思い出されるように私たちは、幹事付から基本動作、服装容儀から言葉遣いまで細かく厳格な指導を受けます。しかし、それらはきっかけに過ぎず、初級幹部自衛官として求められる資質は、自らで考え行動することにより、体得することが求められているのです。

以上のことを踏まえ、私は防大の後輩たちに、教育訓練、学生舎生活、校友会活動の三本柱の活動に対し、自らの考えで行動する機会として挑戦してもらいたいと思います。時間に追われるまま日常を過ごすのではなく、そのような時こそ主体的に行動しなければなりません。日頃からアンテナを張り、感性を研ぎ澄ませ、新しい発見をし、多くのことに気づき、自分のビジョンを定めていくことが極めて重要であると思います。

64期生は、幹部候補生学校を卒業し、一足先に部隊に行きます。私たちは、後輩たちと共に勤務できる日を楽しみにしています。防大での生活は、かけがえのないものであり、一度きりのものです。防大プライドを胸に一日一日を大切に過ごしてください。そして次会う時には防大時代の話に花を咲かせましょう。私の投稿が少しでも後輩の役に立てば幸いです。しかしながら、私もまだまだ未熟者であるので、これからも機会を求め、自ら考え行動できる幹部自衛官を目指し精進して参ります。

◇第64期生に聞く ～ 空自一般幹部候補生 ～

2020. 12. 7

「良き航空士官となるために」

航空自衛隊幹部候補生学校

第1候補生隊第1区隊

一般幹部候補生 空曹長 小川 隼人

全国の諸先輩方及び同期生の諸官におかれましては、日々の任務にご活躍のこととお慶び申し上げます。航空自衛隊幹部候補生学校第110期一般幹部候補生課程(防衛大学校の卒業生及び一般幹部候補生試験の合格者)(以下「BU課程」という。)に入校中の防衛大学校第64期卒業生を代表し、64期人間文化学科、弓道部、アカシア会OB、小川候補生がご挨拶申し上げます。

昨年度まで航空自衛隊幹部候補生学校(以下「空幹校」という。)では、一般大出身者と防大出身者を別々の課程で教育しておりました。しかし今年度より一般大出身者、防大出身者を同じ課程で教育する「BU課程」がスタートしました。このBU課程の動向に関しては、航空自衛隊全体から注目を頂いている状況であり、第1期BU課程として、日々身が引き締まる思いです。今回「小原台だより」に寄稿する機会を頂きましたので、「自ら考え、判断し、行動することの重要性」「私の考えるBU課程の意義」及び「防衛大学校の後輩に向けた助言」の3点を記します。

最初に、「自ら考え、判断し、行動することの重要性」について私の考えを述べます。空幹校では「自ら考え、判断し、行動する航空士官の育成」という教育理念に基づき教育が行われています。そのため当直業務、課外での活動、競技会の運営等あらゆる活動について教官の指導を受けつつ、その多くが候補生の自主裁量に任せられています。つまり、自分自身で必要と思われる業務、努力を見出し、行動する必要があります。

現代の安全保障環境、科学技術等は目まぐるしく変化、進歩しており、「今日の常識が明日の非常識になる」時代は既に到来しています。こうした時代にあたり、日々の生活で「自ら考え、判断し、行動する」ことは極めて重要であり、空幹校の生活は非常に有意義であります。

時には、常に自分に厳しくあることを求められるこの環境に、辛さを感じることもあります。しかし「今日はもう頑張れない」と思う日でも隣で英語学習や体力練成に励む同期を見ていると、「自分もやらねば。」という意志が湧き上がってきます。同期と切磋琢磨しつつ、この教育理念を胸に日々を過ごすことは、変化し続ける状況に対応するための基礎を獲得することに繋がります。同期と共に成長すべく、継続的な努力を行って参ります。

次に、「私の考える BU 課程の意義」について述べます。一般大出身者、防大大出身者を同課程で教育する BU 課程は、将来我々が直面する統合運用、他国軍との活動を円滑に行うことに繋がる、と私は考えています。BU 課程での教育は、一般大出身者と防大出身者の絆を深めると共に、異なる価値観、文化に理解ある人材を育成する基盤となります。同期の絆を深めることも重要ですが、今後陸海空自衛隊が協力する統合運用を行い、世界各国と協力して活動を行うにあたっては、異なる価値観、文化に理解ある人材を育成することが喫緊の重要事項ではないでしょうか。

陸海空自衛隊の間でも運用思想や組織文化に差異がある中、他国軍との間にはより大きな差異があると予想されます。私は防大の人間文化学科にて、「文化相対主義」という概念を学びました。異なる文化であっても、それぞれ独自の価値体系を有する存在として、尊重して捉える態度のことです。「文化相対主義」は他文化を理解するにあたって絶対的に正しいわけではありませんが、他文化を尊重するこの考え方は、今後統合運用や他国軍との協力を行うにあたり、必ず役に立つと考えます。

BU 課程の教育を通じて、異なる出自、経験を有する仲間と活動を行うことは、多様な価値観、文化に理解ある人材を育成し、将来の国防、世界の安定に大きく寄与すると考えます。

最後に、「防衛大学校の後輩に向けた助言」について述べます。防大、空幹校での経験を踏まえて、日々の生活に関する具体的な助言を2点挙げます。

1 点目は、「時間の使い方を具体的に定めること」です。日々を効率的に過ごすことで時間は作れますが、作った時間の使い方について、具体的に定めている人は少ないのではないのでしょうか。これは、作った時間に勉強等をするのみ勧めているではありません。例えば「休息する」と決めて休む場合と、「なんとなく」休む場合では、その効果が全く異なります。矛盾に聞こえますが、意識して「一生懸命休むこと」でより効果的な休息を得られます。つまり、作った時間で「今週は英単語学習をする」「今日は休息し、他の課業に備える」等、取り組む内容を具体的に定めることで、作った時間の有効性が大きく向上します。

2 点目は、各種規則を熟読する癖を身に着けることです。皆さんの机上には「学生必携」があると思いますが、まずはこれを隅々まで読んで下さい。その後、学生必携の根拠文書をも読むと一層理解が深まり、週番勤務、幕僚勤務等日々の生活に必ず役立ちます。我々は憲法、自衛隊法をはじめとする根拠に基づいて行動しなければなりません。根拠を知ることによって禁止事項を知り、自分や部下を守ると共に、許可事項を認識し、安心し、余裕ある気持ちで課業に臨むことができます。

幹部は部下に対し責任を持つ立場となり、根拠を「知らなかった」ために部下の人生に傷をつける可能性もあります。学生のうちから根拠をよく確認する癖をつけることは、幹部として勤務する上での必須事項と考えます。上記2点について振り返り、有意義な防大生活を送って頂ければ幸いです。

おわりに、64期一同は今後とも幹部候補生学校で日々全力を尽くし、良き幹部自衛官を目指して努力して参ります。関係各位の皆様には、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

◇今人生、男盛り ～26期(陸)～(1)

2021. 1. 3

「コロナ禍の勤労感謝の日に思う」

26期 陸上 鈴木 純治



新型コロナウイルス感染拡大の継続する中「今人生、男盛り」への寄稿の機会を頂き、何を書こうかと暫く考えていましたが、女子卒業生の活躍も多く耳にするこの頃「男盛り」？も無いなど考え、この言葉にとらわれることなく最近の状況等について述べてみることにしました。

1 「己に徹して人のために生きる」

「己に徹して人のために生きる」は、私の卒業した高校の校訓です。防大入校以来この言葉をあまり意識することなく自衛官一筋、井の中の蛙状態で必死にもがきながら過ごしてきましたが、今から思うとこのこと自体が「己に徹して人のために生きる」ことではなかったかと思っています。まさに自衛隊という組織は、知らず知らずのうちに「己に徹して人のために生きる」ことを実現させてくれる組織であったと思います。

3年前、自衛隊を退官して一般の企業に再就職しました。企業等で働く人たちの働き甲斐は何処にあるのか、これまであまり考えたこともなかったのですが、今年のコロナ禍の状況において、新たな働き方が求められる中、大変重要なテーマであると思っています。

企業は収益を上げることを目標に毎日努力をしていますが、それだけではなく収益を上げる活動を通じて社会に貢献していくという大きな目的があると思います。例えば車を製造販売する会社は、これにより収益を上げるのみならず、世の中の輸送に貢献しています。またこれは企業に限らず個人で様々な活動している人たちも同様であると思います。例えば芸術家は、その芸術を通じて豊かな暮らしを社会に提供することができます。

単にお金を稼ぐ、家族を養うためではなく、社会の一員として何らかの貢献をするということが、多くの人々の働き甲斐になっているのではないのでしょうか。新型コロナウイルスの感染が収まらない状況下、改めて「働く」とは何かと考えさせられる勤労感謝の日(これを書いているのは令和2年11月23日)です。

2 ボランティアとしてのJMAS(日本地雷処理を支援する会)の活動

一方、縁あってJMASの一員としてボランティア活動することとなり、現在理事長として業務を行っています。

ご承知の方も大勢いらっしゃると思いますが、日本地雷処理を支援する会(JMAS)は、自衛官経験者を中核に、地雷地帯の処理安全化活動を実行する NGO として、日本人の誠意と真

心を、国際社会の現場でお金や物のみの支援ではなく、現地で働く人間の姿として表現するという趣旨で設立されました。

過去に、この誌面でも当時現場で活動されていた先輩からの投稿がありましたが、現在も外務省からの資金援助に加え、劣悪な環境にも拘わらず強い使命感・責任感と情熱を持って活動するメンバーに対し、個人・法人・賛助会員、寄付者・団体、コマツ様を始めとする特別協力企業等から多大なる御支援・御協力を賜り、その活動は本年で18年目を迎えました。

現在JMASは、主としてカンボジア、ラオス、パラオ及びミクロネシアで、陸・海・空の自衛隊OBが活動しています。カンボジアでは、現地組織CMACと連携して、ポルポト派が最後まで抵抗したタイとの国境に近い地雷高密度地帯等において、地雷処理活動、不発弾処理活動及び安全な村作り等地域復興支援活動を行っています。

またラオスにおいては、現地組織UXOLaoと連携して、不発弾処理、中でもベトナム戦争当時のクラスター子弾の処理に力を入れ、独自の機械処理を推進しつつその技術を移転しています。

太平洋の戦略的要衝パラオにおいては、沈没船に残っている爆雷等ERW(爆発性戦争残存物)の処理を行うとともにその技術移転に向け努力しています。

またミクロネシア・トラック環礁においては、先の大戦で沈められた戦没船の捜索・位置の特定及び沈没状況の把握に加え油脂漏洩防止の応急処置等を行っています。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、現地との往来もままならず活動が困難・混迷していますが、そのような中においても現地で活動するメンバーの努力と工夫で必死



爆破処理



機械処理(ラオス)



爆雷ラッピング(パラオ)



船体確認(ミクロネシア)

に活動を継続しています。また国内においてもこれまで通りに広報活動もできず、ご寄付等の御支援も例年のようにはいかない状況です。

是非読者の皆様にはJMASの活動にご理解を頂き、ご入会、ご寄付等御支援・御協力を頂ければ幸いです。詳しくは、JMASのホームページをご覧ください。

3 最後に

「己に徹して人のために生きる」とは、自分の自己実現のための活動を徹底して行い、結果としてそのことが社会あるいは他の人のためになる、そのような生き方を目指せということだと思っています。これからも、時々立ち止まってこの言葉を思い出したいと思います。

◇今人生、男盛り ～26期(陸)～(2)

2020. 12. 29

「防大、自衛隊に感謝！」

26期 陸上 福岡 龍一郎



小学生の頃から戦車のプラモデルに夢中だった私は、幹部校候補生学校卒業後、念願かなって東北方面隊の第9及び第6戦車大隊で小隊長として勤務することになり、憧れの仕事だっただけに、厳寒の冬季演習さえ楽しく感じられ、戦車射撃課程にも入校させていただき充実した「戦車乗りライフ」をおくっていました。

そんな折、父の健康状態が悪化したため、後継者として会社経営の道に転身を余儀なくされ、日本のロンメルになるという夢を断念し、昭和63年春同期生がAOCに入校するその日に、後ろ髪を引かれる思いで陸上自衛隊を退職いたしました。

その後、5年間ほど大阪の機械商社勤務を経て佐賀に帰郷し、父の死後36歳で日産自動車のディーラーを含む3社の経営を預かる身となりました。ところが、どの会社も内情は火の車。多額の借入金と赤字を抱えており、内心、父に騙されたと後悔したものの後の祭り。初めて億単位の借入金の借用書に個人保証の実印を押した時には、個人では到底返せない大きな金額に手が震えたことは忘れられません。

丁度そのころ、経営危機に瀕した日産自動車が仏ルノー社と資本提携し、例のカルロス・ゴーンが日本にやってきました。今は犯罪者ですが、当時はまさに日産の救世主としてV字回復の立役者となります。一度だけ名刺交換をしたことがありますが、熱気が沸き立つようにエネルギッシュな人物でした。

目標と責任の明確化、縦割り組織を超えた横の機能連携、年功序列を排した能力主義人事など、日本人が悪習や権力闘争に縛られズルズルと実行できずに終わっていた経営再建計画を、一切妥協せずズバズバと断行する実行力には目を見張りました。しかもこの改革は幹部候補生学校で教わった「戦いの原則」に則ったもので、経営も戦いも原則は同じだと痛感し、今さらながら真面目に戦術を勉強していれば良かったなと後悔しています。

しかし、ゴーン改革は5年ほど好調でしたが、商品開発をおろそかにして生産コストを低減し、商品力ではなく安売りに頼る販売戦略は、短期的には功を奏したものの次第に業績の低迷を招き、ゴーンと日産自動車は再び転落の道をたどりご存知のような現在の状態に至ります。

余談ですが、日産ディーラーの経営者には、私と年の近い方がかなりの数おられ、数人の方の高校の同級生が私と防大同期です。ついでに言うと、私の高校の同級生が勤務する会社の同じ部署に防大の同期が再就職で入社するなど、つくづく世の中は狭いものです。

さて、リーマンショックや毎年のように起こる自然災害、日産自動車の不祥事にもかかわらず、3つの会社をなんとか今日まで守ることができたのは、防大や自衛隊で養った体力気力と、ほんの初級レベルながら戦術や指揮・統率に関する教育のお陰です。

中でも「指揮の要訣」は、そのまま管理職の仕事に使えます。「人を動かす」ことに軍民の違いは無く、当社の管理職研修で私が講師を務め、実践するよう指導しています。

また、9戦車離隊時に佐々木達士大隊長からいただいた「機甲指揮官十訓」は、私の道標となっています。経営環境の変化が激しい現代では「猪突猛進するとも遅疑逡巡する勿れ」、「創造に生甲斐あり、後塵を恥じよ。」の教えは、経営判断に迷った時、背中を押してくれます。たった5年間の戦車部隊勤務でしたが、巧遅よりも拙速を尊び、朝令暮改は当たり前、柔軟に状況の変化に対応する機甲科精神を教えていただいたことは、根が優柔不断な私にとって貴重な財産となっています。

佐賀に帰郷したとたん、地元の防大OBの先輩方から自衛隊関連の諸団体に勧誘され、小原台情報網の威力に驚きましたが、お坊ちゃん育ちで甘ったれの私を鍛えていただいた防大、自衛隊に恩返しするつもりで活動を続けています。正直、私は中途退職したということを、少なからず引け目に感じていたのですが、一切関係なく接して下さる防大の先輩・同期・後輩には、同じ釜の飯を食った兄弟分の優しさ、有難さをしみじみ感じ、感謝するばかりです。

さて、私の趣味は、夫婦旅行を兼ねて各地のフルマラソンの大会に出場することです。防大では柔道部、自衛隊では戦車隊、今は自動車屋と、駆け足とは縁遠い経歴ですが、45歳で初めて完走して以来、49大会、20都府県で完走することができました。コロナ騒ぎが落ち着き各地の大会が再開されたら、50回目の完走を果たすのが当面の目標です。

最後になりましたが、我々26期は3回目の成人式を迎えたばかりの男盛りです。同期生の中には上場企業の社長や重役としてバリバリ働いている者や、パラグライダーやヨット、サーフィンなどアクティブな趣味を楽しんでいる者がおり、私もまだまだ負けるものと奮起させられます。同期生の皆さん、人生100年時代、まだまだ元気に人生をエンジョイしようではありませんか！

◇今人生、男盛り ～26期(海)～

2020. 12. 29

「再び、海を職場として」

26期 海上 中村 雅樹



2015年3月に海上自衛隊を勧奨退職し、内航海運業の日本海運株式会社に入社、現在に至っています。私が入社するまで日本海運には、船員を含めても自衛隊出身者は採用されておらず、私が初めてでした。私の所掌業務は、運航に関する安全管理全般です。

日々の業務としては、運航船が安全に航海できているかをチェックし、風浪の影響から航海続行は困難との判断をした場合は、近くの港湾等に避難するように指示を出します。特に、台風が日本に近づくシーズンに入ると気が抜けません。

その他、事故対応(事故分析・再発防止策を含む)、船員への安全教育、社内安全会議や船主さんとの安全会議も担当しています。入社当初は、安全の担当部長がいましたので、彼を補佐する顧問という気楽な配置でしたが、3年前から私が部長になり、安全の正面に立つようになりました。もともと、部長とはいえ、部下は一人しかいないので雑務もこなしています。

第2の職場が引き続き海の上での勤務でしたが、商船勤務の経験がない私にとっては、未知の分野でした。そこで、真っ先に始めたのが、運航している船舶に乗船、一緒に航海し、彼らの仕事を把握することでした。その最初の出港で啞然としました。護衛艦では出入港時、艦長を補佐するため艦橋内には多くの方がいますが、一般商船では、船長一人しかいませんでした。エンジン操作も操船も全て船長がしていました。正直、目が点になりました。また、航海中のブリッジをみると、護衛艦では8名程度の当直員が勤務していますが、商船では僅か2名か1名です。しかも、艦長は基本、艦橋にいますが、船長は通常、ブリッジに不在です。操船指揮から操舵、見張り、船位の把握等々、全て2人(もしくは1人)でこなしていました。

「無理…。護衛艦と同じレベルの安全を担保するのは無理。衝突させないことだけを考えよう。」との考えに至り、彼らに必要な安全教育を組み立てました。また、運輸業界には国が規定した「運輸安全マネジメント」を実践することが課せられています。

これは、「安全に関しては現場任せにするのではなく社長自ら積極的に事故防止に関与し、責任を取りなさい。海運業界では、これまでのような『全部、船長任せ』は止めなさい」というものです。この制度の中核は、運航管理者という配置で、実質的な船舶の安全運航に関する責務を担っています。この配置は会社の役職とは別に指定され、国交省への届け出が義務付けられおり、私は、2年前から運航管理者としても勤務しています。

最後に、現在、取り組んでいることにゴルフがあります。元々、現役時代から嗜んでいましたが、100を何とか切れる程度で、100叩きの刑にしばしば遭っていました。防大同窓会ゴルフ大会にも参加してきましたが、26期は常にブービーメーカーと呼ばれる始末、「なんとかしないと。」との思いで、今、スイングの改造(というか正しいスイングの習得)に取り組んでいます。30数年間をかけてこり固まった個癖に苦労しながら、エイジシュートを達成すべく頑張っています。

《 海運業界とは 》

海運業界には、大きく分けて内航海運と外航海運の2つがあります。国内の港と港を結ぶのが内航、国内の港と外国の港を結ぶのが外航です。

内航船舶数は平成31年3月31日現在5,201隻で、年々減少しています。そのうち、内海や沿岸近くを航行する小型船(499総トン以下)が7割弱の約3,500隻を占めています。事業者数は約1,860社、その中で、船主と船長(又は機関長)が同一人物で、家族ぐるみで運航している個人事業者(所謂1杯船主)が4割強の約800社あります。資本金では3億円以上の事業者が全体の6%しかなく、5,000万円未満の法人及び個人が85%を占める零細企業の割合が高い業界です。弊社は、日本通運のグループ会社で、年商では内航海運業界で10位に位置付けています。



RORO 船



一般貨物船

次に輸送能力についてみると、10トントラックと比較した内航船舶の輸送量は、単純計算で、小型船(499総トン)1隻で10トントラック約45台分の容積を有し、重量では150台分を運送することが可能です。また、RORO船では、10トンロングトラック約170台分以上を輸送することができます。

国内輸送機関別における内航海運の輸送活動量(輸送トン数×輸送距離)のシェアは44%にも及んでおり、特に鉄鋼、セメント、石油、砂利等の基礎資材においては、国内輸送の8割以上を担っています。その他にも、北海道で生産された生乳は、RORO船で関東地区の港に輸送されていますし、ジャガ芋や小麦も小型貨物船で各地から輸送されています。

新聞用の紙も、北海道からRORO船で毎日大量に大都市まで運ばれています。今、内航海運業界で深刻な問題になっているのが、船員の高齢化です。船員の年齢構成は平成31年3月31日現在、20代:19%、30代:14%、40代:15%、50代:24%、60代以上:28%となっており、50代以上が50%を超えています。10年後には、船員不足により運航できない貨物船が出るのではと危惧されており、若い人にとって、内航船員が魅力ある職業にするための施策が国の主導で検討されています。

◇今人生、男盛り ～26期(空)～

2020. 12. 29

「還暦を祝う 今を盛りの命ともがな」

陸26期 航空 小野 賀三



令和2年10月10日、まだ紅葉も見ぬうちに、もう冬が来たと思えるほどに今朝は冷えた。ふと、人は60歳になったらいったい何を考える。「もの思う秋」を迎えたということだろうか。ついこの前まで、こんなことは、思いもしなかった。自衛官も定年で辞めてしまえば、もう「年寄り」の仲間入りぐらいに思っていたのに、会社に勤め始め、何か未だそんなでもないように思ううち、私も、とうとうその歳を迎えた。

60歳を人生の区切りに皆、「還暦」を祝うものだと思ってはいたものの、自分のこととは思ってもせぬまま、ある日、離れて暮らす息子から荷物が届いた。赤いチャンチャンコに頭巾、還暦の定番アイテムを、妻の分と二揃い。夫婦めでたく還暦を祝え、ということなのだろうが、正直、これには、はっとさせられた。しかし、よく考えてみれば、あながちそれも悪いことではない。子から贈られた晴れ着を纏い、夫婦揃って還暦を祝うというの。そんな、ただ齢を重ねたというだけのありきたり、でもそれが結構幸せなことなのだと思うのは、一人の同期生のおかげだ。彼は、これまでも私の人生にずっと何ものかを与えてくれた。そんな彼こそ、終生の友といってもいい。

その同期生の名は「山本 晃」、彼はまた、「カンスケ」や「カンチャン」、「コタロー」とも呼ばれていた。ニックネームが多いのは、それだけ皆から親しまれていた証といえる。現に「ユウイチ」やら「ヤンチ」、これなんかはまだ名前だが、中には、「カンボ」や「カニ」と呼ばれる同期も居る。皆、気の置けない奴ばかりだから、今も楽しい付き合いがある。

「カンチャン」と私は入校間もない春の日に、桜舞う弓道場で出会った。当時、体育会系の校友会は全入が掟だったから、二人は何の心得もないままに弓を引き始め、以来、四年間、暑い日も寒い日も、トーチカ脇のひっそりとした道場で時を共に過ごした。我々の期は部員が4人しかいなかったから、全員がレギュラーになる。そう励ましあって稽古を続けた。正直、中だるみもあったが、とにもかくにも卒業までやり通せたのは彼のお陰だと思う。腕の方はといえば、彼の方が上だった。参段には彼が先に昇段し、部長にも彼が就いた。彼は、学生隊幕僚にも選ばれるくらい、殆どすべての点で私より出来が良かった。それでも、我々には屈託がなかった。それは、彼

のホノボノとした性格のおかげだったと思う。竹内まりやと戦史を共通の趣味に、カセットをダビングし合い、週末の学生舎でこっそり徹夜のウォーゲームを戦い、休暇には古戦場なんかを歩いたりもした。三年の夏、定期訓練明けに関ヶ原を訪ねた折、立ち寄った養老公園で「この水は、孝行息子が汲むと酒になるというが俺はまだ、孝行が足らん。」と彼は笑いながら嘆いてみせた。実際、彼は優しい両親に、傍にも痛いほど大切にされていたから、私は彼が口にした孝行の願いは満更(まんざら)でもないと思った。でもこの時、そんな健気(けなげ)な願いを空しくする、先立つ不孝が彼にあることを思うことはできなかった。

防大、幹候校を卒業し、違う職種と任地に進んだ我々が、次に会ったのは、5年経ってのことだった。彼は、小牧に入校した私を、官舎に呼んで奥さんのご馳走でもてなしてくれた。しかし、その彼の髪と顔は昔日のそれとはすっかり見違えるものだった。驚く私に、彼は私が察したとおりの病名を告げ、そして「もう良くなった。」と元気そうに笑って見せてくれた。「それは、良かったな。」と、私が彼に言ったのは、若さゆえに命の儂(はかな)さを思うことができなかつたからなのか、それとも、自分を偽っても、ただ安心したかっただけのことなのかは分らない。しかし、それから僅か数か月後に届いた訃報こそが、その本当の結末だった。

当時、我々はまだ駆け出しの二等空尉。仕事も人生も万事これからだと思っていた。それが、突然そうではなくなったことを、ご両親と奥さんの絞るような泣き声で私は悟った。葬儀には同期も多く詰めかけたが、誰も彼がそうならねばならない理由を見つけることはできなかった。吉田松陰は、刑場の露と消える吾身を嘆く門弟達に「どんなに短い一生にも、春と夏と秋と冬がある。」そう言って慰めたという。では、彼は本当に人生の四季を巡ることができたのだろうか。私は、凍える路上で読経を聞きながら、ただ考えあぐねるしかなかった。

それからの私の人生には、ずっと彼が居たような気がする。「人の定めはとは理不尽なものだよ。」と、心の聲(こえ)が聞こえる。私は自衛官として現役であったときから、数多くの同期生たちから限らない助けと得難い示唆を得て来た。そしてそれは、退官した今となっても変わらない。それでも、私は、一番多く彼の声を聴きながら、この30年余を生きてきた気がする。死せる者は、時として命ある者より(じょうぜつ)饒舌だ。私は、これまで仕事に勤(いそ)しみながらも、連れ合いと共に巡る季節を愛(め)で、子育てを愉(たの)しみ、そして幾分かの孝行をして親を看取り、野辺に送ってきた。これらは、いずれも彼が味わう事のできなかつた人生の滋味(じみ)というものである。その都度、彼は私を羨(うらや)んだり、慰めたり、褒めも叱りもしてくれた。つまり、彼は私の人生の一つ一つの出来事の意味を気づかせてくれたのだ。

もし、人の一生に「盛り」というものがあり、それを人生の四季に喩(たとえ)えるならば、夏こそがそれに相応(ふさわ)しい。彼は、熱気に満ちた「思い上がりの夏」を知らぬまま、春のまさに酣(かん)に逝ってしまった。私は、そんな彼の羨望と叱咤を受けて、人生の夏を生きてきた気がする。そしてこれから、私は秋を迎え、やがて訪れる冬を待つことになるのだろうが、しかし今はまだ夏の余熱が残る。それが一体どれ程のものになるのか、まだ分らないが、これも私には許された人生の一部だ。それをちゃんと生きるのでなければ、彼に恥ずかしい。「彼の分まで生きる」などという

大それたことはとても言えないし、また出来ることでもない。それでも、これまで彼に励まされ、今日を盛りと生きて来たから、これからもそう生きて行きたいと願っている。そして、その時にはきっと、また彼の聲を聴くことになるのだろう。

■活動報告

◇令和2年度 防衛大学校同窓会代議員会(実施報告)

同窓会は、令和2年度代議員会を Web 会議も併用して開催すべく準備してまいりましたが、政府の緊急事態宣言の発出・延長による外出・移動自粛の要請を受け、また会議出席予定者の感染防止、Web 会議を運営する事務局員参集の困難性等に鑑み、Web 会議を含めその開催を中止させていただきました。同窓会として年度事業計画等の議決が必要なため、代議員の皆様には返信はがきにより議案に対する賛否をご回答いただきました。

以下その概要等について報告します。

1 全般

代議員会で審議予定であった下記3つの議案について返信はがきによる回答での議決を行った結果、反対意見はなく、過半数の賛成の返信を賜り、それぞれの議案についてご承認いただきました。

第1号議案 令和元年度同窓会事業報告・会計決算報告・会計監査報告

第2号議案 令和3年度同窓会事業計画(案)・事業予算(案)

第3号議案 令和3年度同窓会役員の選出

なお、代議員の皆様から頂戴しました意見やご質問に対しましては、事務局より個別にメールにより回答させていただきます。

また、令和2年度の代議員会にあたり、第4期生会が令和3年3月末をもって期生会を解散されるという報告がありました。これまでの、第4期生会の同窓会に対するご尽力に対し心から御礼申し上げます。

2 新型コロナウイルス感染症対策支援

(1) 新型コロナウイルス禍の令和2年度同窓会業務の運営

防衛大学校の感染拡大防止を伴う校務運営に同窓会事業・業務が阻害とならないことを基本とし、事業の実施が困難なものは中止・延期し、小原台事務局長以下による学校行事等への参加・激励で対応できる事業は実施してまいりました。その他の事業は、「新しい生活様式」を踏まえた見直し等を行い一部を実施した他、年度計画事業に加え、防衛大学校の新型コロナウイルス感染症対策支援を実施しております。

ア 同窓会として中止・延期した主要事業

(ア) 各種競技会(テニス大会、ゴルフ大会、囲碁大会)

(イ) 会長による夏季部隊実習訓練の現地激励

(ウ) 顕彰碑献花式時の同窓会会食

(エ) 第44期生のホーム・ビジット・デー(HVD)の延期

(オ) 代議員会時の講演会・懇親会

イ 防衛大学校行事の見直しに伴い中止・修正された事業

(ア) 第8期生のホーム・カミング・デー2(HCD2)の延期

(イ) 入校式(中止)、開校記念祭(部内者のみでの記念行事)への会長参加の中止

(ウ) 顕彰碑献花式への会長参加中止に伴い、中澤小原台事務局長が会長代理として顕彰の辞を奉読

(エ) 各種競技会等の役員による激励の中止に伴い、中澤小原台事務局長が会長代理として激励

(2) 新型コロナウイルス感染症対策支援の紹介

令和2年7月には、夏季定期訓練における部隊実習先等での感染予防対策を支援したほか、8月には新型コロナウイルスの影響で夏季休暇中に帰国できなかった留学生を激励しました。また、10月以降、防衛大学校が実施する新型コロナウイルス感染症予防対策の支援を継続しています。

3 国際交流支援

近年防大は、留学生の受け入れ国を増加させるとともに、防大生の海外派遣機会を増加させるなど、国際交流を活発化させております。このため、同窓会として防大の国際交流を支援し、母校の充実・発展に寄与等するための事業を検討中です。当面は、既に支部が設立されているものの未だ会長訪問が実現していないモンゴル支部への会長訪問を具体化してまいります。中期的には、卒業留学生との連絡調整が軌道に乗った段階で、防衛交流等への貢献の可能性について検討してまいります。

4 同窓会本部からの報告・お知らせ

代議員会で報告を予定しておりました件を含め、6点お知らせいたします。

(1) 防衛大学校同窓会ホームページ(以下、HPという。)細則の改正

試行として制定している現行細則(H28.4.1～)を次の要因を踏まえ、令和3年2月17日の理事会で審議・制定いたしました。その変化要因は、①サイバーインシデント対応、②現状の変化への適合、③個人情報保護方針(H30.4)の制定、の3点であります。特に近年サイバー空間での脅威が深刻化していることから、同窓会事務局におけるサイバーインシデント対応について具体化するとともに、期生会・地域支部等各コミュニティサイト(地域支部等・期生会・校友会OB・その他学科OB会)について、サイト管理者の職責を新たに規定いたしました。具体的には、“サイバーインシデントの発生を認めた場合は、HP管理者へ通報する”ことなどです。

概要は次の資料(参照第1)を、細部は本機関紙の「連絡事項」の「会則等改正」をご確認ください。

参照第1「HP細則の改正について(広報部)」

- (2) ホーム・カミング・デー(HCD)、ホーム・カミング・デー2(HCD2)、ホーム・ビジット・デー(HVD)につきましては、実施予定期をHPの「活動報告」に掲載しております。次の資料をご確認ください。

参照第2「HCD、HCD2及びHVDの実施予定期について」

- (3) 各種競技会の予定

令和3年度の競技会につきましては、囲碁、テニス、ゴルフ大会ともに下記の通り秋に予定しております。

各種競技会	実施日
囲碁大会	9月4日(土)
ゴルフ・レギュラー大会	9月10日(金)
ゴルフ・シニア大会	9月17日(金)
テニス大会	9月28日(火)

- (4) 令和3年度代議員会、講演会・懇親会の予定

令和4年3月5日(土)を予定します。時間・場所・実施要領につきましては、「新しい生活様式」を踏まえて今後検討し、決定次第HP等で連絡いたします。

- (5) 留学生協力家庭の募集の紹介(防大からの依頼)

防衛大学校では、留学生のホストファミリーを募集しております。是非ご協力ください。なお、HP上にて本募集紹介を掲示しております。次の資料をご確認ください。

参照第3「防衛大学校留学生ホストファミリーの募集協力」

- (6) HP閲覧紹介

「会員の慶弔業務」及び「寄付手続き」につきまして、HPを更新しております。次の資料をご確認ください。

参照第4「同窓会会員の訃報通知要領について」

参照第5「寄付手続きのお知らせ」

- (終わりに)

新型コロナウイルスのワクチン接種が進展して新しい普段が早期に訪れますよう、また同窓会員の皆様におかれましても益々ご健勝で過ごされますことを心より祈念しております。

(同窓会総務部 28期陸 河本 宏章 記)

HP細則の改正について

広報部

3.2.27

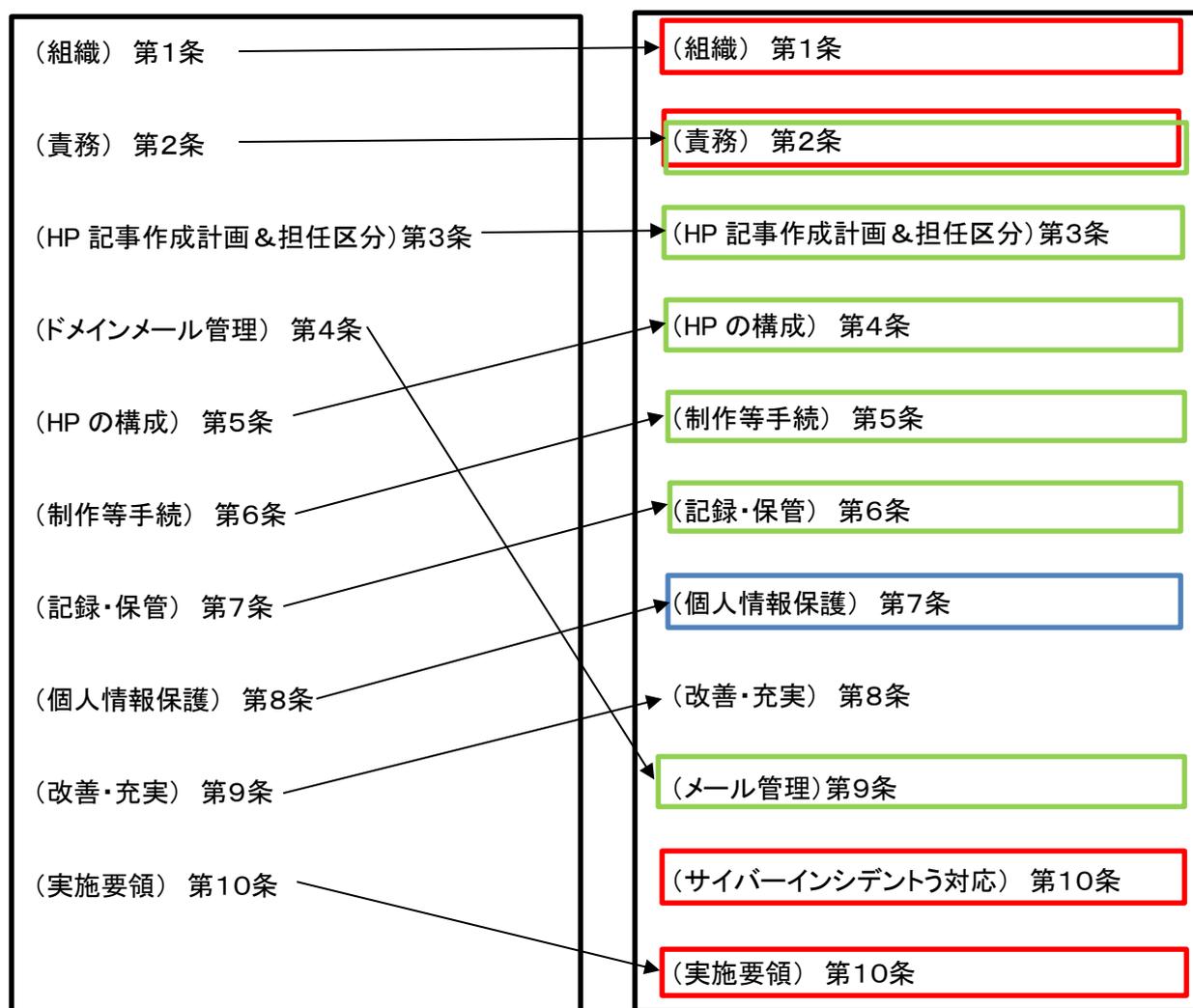
1 趣旨

試行として制定している現行細則(H28. 4. 1～)を次の変更要因を踏まえて改正し、令和3年2月17日の理事会で制定したことから、お知らせするもの。

2 現行細則の変更要因

- (1) サイバーインシデント(R2. 2 不審メール事案等)対応
- (2) 現状の変化への適合
- (3) 個人情報保護方針(H30. 4)の制定

3 新旧対比条項及び変更要因



 : サイバーインシデント対応

 : 現状の変化への適合

 : 個人情報保護方針の制定

4 変更点

(1) 表題の変更

「防衛大学校同窓会ホームページの管理運営及びサイバーインシデント対応に関する細則」に変更

(2) サイバーインシデント(R2. 2 不審メール事案等)対応

第1条(組織)

- ・組織の担任にサイバーインシデント対応を付加

第2条(責務)

- ・広報部長及び HP 管理者の職責にサイバーインシデント対応を付加

第10条(サイバーインシデント対応)

- ・対応担当を明記: 広報部長がサイバーインシデント責任者、広報部長補佐が補助者
- ・サイバーインシデントの疑いがある場合の連絡態勢・処置を明記
- ・各部等の事務局員に加え、各コミュニティサイトの管理者の対応を明記

第11条(実施要領)

- ・実施要領作成に関する事務局長への委任規定にサイバーインシデント対応を付加

(3) 現状の変化への適合

第2条(責務)

- ・各担当の職責、記事原稿担当及び新たに各コミュニティサイトの管理者の職責を明記

第3条(HP 記事作成計画)

- ・総務部が作成する各種行事への参加・随行予定等に基づき作成することを明記

第4条(HP の構成)

- ・HP の構成を最新状況に変更

第5条(制作等手続)

- ・HP 記事作成計画の作成にあたってのリンク先の条件を明記及び掲載手続きを具体化

第6条(記録・保管)

- ・記録・保管要領を具体化

第9条(メール管理)

- ・アカウント管理等を具体化

(4) 個人情報保護方針(H30. 4)の制定

第7条(個人情報保護)

- ・個人情報保護に関する参照既定の変更を明記

【参考: 期生会・地方支部等関連】

各コミュニティサイトとは、地域支部等、期生会・校友会・OB 等で、本改正で各コミュニティサイトの管理者の職責及びサイバーインシデント対応を新たに規定

HCD、HCD2及びHVDの実施予定期について

1 HCD

2019年度は、新型コロナ感染拡大の影響により防大卒業式への招待が中止になったため、第21期生HCDを一年延期するとともに、各期生HCDを一年繰り延べすることが決定されました(2020.4)。

2020年度は、新型コロナ感染拡大の影響により、昨年度に引き続き、防大卒業式への招待が中止となりました。第21期生会として、後輩期への配慮及び実行委員の負担の面から、HCD参加の中止が決定されました(2021.1)。

- (1) 2021年度(2022年3月):第22期生
- (2) 2022年度(2023年3月):第23期生
- (3) 2023年度(2024年3月):第24期生
- (4) 2024年度(2025年3月):第25期生
- (5) 2025年度(2026年3月):第26期生

2 HCD2

2021年度は、新型コロナ感染拡大の影響により、昨年度に引き続き、防大入校式への招待が中止になりました(2021.1)。

- (1) 2022年度(2022年4月):第8・9・10期生
- (2) 2023年度(2023年4月):第11期生
- (3) 2024年度(2024年4月):第12期生
- (4) 2025年度(2025年4月):第13期生
- (5) 2026年度(2026年4月):第14期生

3 HVD

2020年度は新型コロナ感染拡大の影響により防大開校祭への部外者訪問が中止になったため、第44期生HVDを一年延期するとともに、各期生HVDを一年繰り延べすることになりました(2020.11)。

- (1) 2021年度(2021年11月):第44期生
- (2) 2022年度(2022年11月):第45期生
- (3) 2023年度(2023年11月):第46期生
- (4) 2024年度(2024年11月):第47期生
- (5) 2025年度(2025年11月):第48期生

防衛大学校留学生ホストファミリーの募集協力

2021.03.18

防衛大学校では、現在11ヶ国から外国人留学生を受け入れており、2020年度も10ヶ国から25名の留学生を迎えました。留学生は、基本的に1年間の日本語教育を履修した後、日本人学生と同じく本科教育を4年間受講、合わせて5年間修学しております(韓国人留学生は2年間修学)。

各国から派遣されてきた留学生には、防衛大学校卒業後、母国での士官としての活躍や、日本国(自衛隊)との防衛(軍事)交流の中核としての役割などが期待されております。

防衛大学校では、長期にわたり母国を離れて生活する留学生に対する「ホストファミリー(協力家庭)制度」を設けております。本制度は、留学生に日本語や日本における生活・文化について慣れ親しんでもらうとともに、国内における温かい家族(家庭)を体験させることにより心身をリフレッシュさせる等、より一層修学に邁進できる環境作りに寄与することを目的としております。

防衛大学校は、本制度趣旨にご賛同いただき、ご協力いただける家庭(ホストファミリー)を募集しております。留学生は各国の将来を担う人材であり、防衛大学校同窓会としても、防衛大学校による国際交流を支援し、母校の充実・発展に寄与するため、ホストファミリーの募集に協力することといたしました。関心やご興味のある方は、防衛大学校同窓会事務局(注)にお気軽にお問い合わせ下さい。

1 ホストファミリーの条件

- (1) 留学生と知人(若しくは友人等)としての付き合いを継続する意思があり、日常生活の案内や日本の理解のための支援をしてくださること。
- (2) 国籍、人種、宗教等の差別がないこと。
- (3) 同居家族全員のご賛同が得られていること。

2 ホストファミリーの活動内容

各家庭において可能な範囲での留学生との交流(宿泊、観光・レジャー、食事等)が期待されておりますが、交流頻度も合わせて強制されるものではありません。なお、防衛大学校学生(留学生を含む。)の外出は、原則として休日(土日祝日)及び長期休暇(夏期、年末年始等)のみ(訓練等により外出できない場合があります。)であり、また帰校時間(門限)も指定されております。その時間内での交流が期待されています。

3 各ホストファミリーの留学生受け入れ人数と期間(基準)

各ホストファミリーに1~2名程度の留学生を受け入れていただき、入校から卒業までの5年間(韓国留学生のみ2年間)の期間での協力が期待されています。

4 その他

- (1) 防衛大学校同窓会としては、ホストファミリー希望者を同窓生に限定して募集しております。したがって、この確認を行った後、防衛大学校に連絡いたしますので、第一報は同窓会事務局(国際交流担当)にお願いします。
- (2) 2021年3月現在、タイ、インドネシア、ベトナム、モンゴル、カンボジア、フィリピン、東ティモール、ラオス、ミャンマー、マレーシア、韓国からの留学生が在籍しています。
- (3) 防衛大学校は、ホストファミリー希望者と事前に受け入れ可能人数等を確認ののち、留学生を紹介しています。

【注】防衛大学校同窓会本部 事務局

○ご連絡先

〒162-0845 東京都新宿区市ヶ谷本村町 3-19 千代田ビル 101号

Tel&Fax: 03-6265-3416

○交通アクセス

四ッ谷駅または市ヶ谷駅から徒歩約 10 分 防衛省正門前



同窓会会員の訃報通知要領について

2020.04.01

1 訃報の連絡内容

- (1) 期別、要員
- (2) 故人の氏名
- (3) 喪主(故人との関係)
- (4) 喪主の現住所・電話番号
- (5) 逝去年月日
- (6) 通夜・葬儀の日取り・時間・場所等
- (7) 葬儀社の連絡先

2 訃報に伴う処置は、同窓会慶弔等に関する細則による。(内容要約)

- (1) 会員の殉職に際しては、弔慰金 50,000 円、弔電及び生花一對
- (2) 会員が死亡(令和2年度)の場合
16期生以前の方は弔電のみ
17期生以降の方は弔電及び生花一基
※なお通夜／告別式に間に合わなかった場合は香典として 15,000 円
- (3) 弔電は「会長」名、生花は「防衛大学校同窓会」名

3 土・日・祭日又は事務局閉館日の場合の処置(本部事務局と連絡が取れない場合)

- (1) 各期生会で、弔電「会長名」、生花「防衛大学校同窓会名」の代行処置をお願いします。
- (2) 領収書等は、下記住所に送付手続きをお願いします。

(記)

〒162-0845 東京都新宿区本村町 3-19 千代田ビル 101 号
防衛大学校同窓会本部事務局 総務部長 宛て
(ご連絡先)

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 3-19 千代田ビル 101 号
Tel&Fax: 03-6265-3416

寄付手続きのお知らせ

日頃より防衛大学校同窓会の活動に対し、ご理解とご協力を頂き、誠に有難う御座います。さて、この度、防衛大学校同窓会では、これまで示されていなかった寄付受けの手続きを以下のように定め、会員各位からの寄付の受け皿を明確にすることと致しました。

寄付金につきましては、①母校の充実・発展、②会員相互の親睦・交流、③社会活動への寄与の3つの活動目的に沿って理事会の決定により運用させていただきます。

同趣旨にご賛同頂き、寄付を希望される個人及び団体(期生会等)の皆様は、下記に示す要領により郵便局備付け青色の「払込取扱票」に必要事項をご記入のうえ、お振込み頂きますようお願い申し上げます。また、事務局にご一報頂ければ、下記赤色(手数料同窓会負担)の「振込取扱票」を送付させていただきますのでお気軽にご連絡下さい。

なお、一般の方々からのご寄付はご遠慮頂いておりますのでご了承下さい。

【問い合わせ先】

防衛大学校同窓会本部事務局

払込取扱票										通常払込料金 加入者負担								
02	口座番号									金額								
0	0	2	6	0	5	2	4	8	2	6	千	百	十	万	千	百	十	円
加入者名	防衛大学校 同窓会										料金	特殊 取扱						
通信欄	(BOO期陸・海・空) or(BOO期期生会)他																	
ご依頼人	おとところ (郵便番号)										受付局日附印							
	おなまえ										料 金							
	(電話番号)										特殊取扱							
裏面の注意事項をお読みください。(郵政事業庁)													これより下部には何も記入しないでください。					

払込金受領証																		
口座番号										通常払込 料金加入 者負担								
0	0	2	6	0	5						千	百	十	万	千	百	十	円
加入者名	防衛大学校 同窓会										金額							
ご依頼人	おなまえ										おなまえ							
料 金											受付局日附印							
特殊取扱																		

■地方支部

◇令和2年度徳島地区支部総会等成果について(報告)

2020. 7. 23

1 全 般

令和2年度防衛大学校同窓会徳島地区支部の総会・講演会・意見交換会を令和2年4月4日(土)徳島市内の阿波観光ホテルにて実施いたしました。

新型コロナウイルス感染予防のため、例年招待している徳島県内部隊等で勤務している防大卒の現職幹部自衛官及び防大在校生家族の招待を取り止め、OB会員のみの出席(16名出席/会員36名中)を得て、開催することができました。

本総会等開催に当たり、防衛大学校同窓会本部よりご支援頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

2 実施内容

(1)総 会 11:00 ~ 11:30

福田支部長の挨拶に続き、事務局から防大連に関する活動計画の説明、決算報告を実施しました。(長テーブルに一人の着席と前後距離を保持)

(2)講演会 11:40 ~ 12:30

徳島文理大学 国際部長兼総合政策部教授 高橋孝途氏(海上26期生)による講演会を実施いたしました。

「台湾海峡危機への備え～台湾アイデンティティーの伸張を踏まえて～」という演題で中国との関連性のある内容であったため、OBも興味を持って真剣に耳を傾け、全員が「大変参考になった」と好評でした。

(3)意見交換会(会食) 12:40 ~ 13:10

恒例の懇親会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、アルコール類の提供を取り止めて、会席風弁当(持ち帰り可能)を食しながらの意見交換会といった形で実施いたしました。(丸テーブルに小人数、テーブル間の距離間隔保持)



受付の様子



総会(支部長挨拶、事業報告)



高橋孝途氏による講演



意見交換会(会食)の様子

(徳島地区支部 19期 山崎 忠雄 記)

◇宮崎地区支部だより(ゴルフコンペ)

2020. 10. 18

コロナの影響で今年度の宮崎地区支部行事は、総会、懇親会も取りやめとなり、唯一残っていたのが、秋のゴルフコンペでした。台風14号が発生し、実施が危ぶまれていましたが、10月10日(土)、宮崎は台風一過の秋晴れ。コロナの感染者も約1か月発生することなく推移していることから、ゴルフコンペを開催することとしました。

陸の3期生83歳の 大坪正隆 大先輩から、空の40期生までの総勢17名が、宮崎愛和ゴルフクラブに集まりました。一時中止していたゴルフコンペを年間春と秋の2回の実施で再開、天候によるキャンセルを含めて今回が16回目となります。久しぶりのゴルフで大いに盛り上がりましたが、空の17期 中村正千代 先輩の優勝となりました。

今後も4月と10月の第2土曜日に実施していきますので、他県からの参加もウェルカムです。どしどし参加ください。

連絡先は、宮崎地区支部 金丸(090-5922-2221)までお願いいたします。



ゴルフコンペ参加者(3期～40期生) 於:宮崎愛和ゴルフクラブ

(宮崎地区支部 事務局長 金丸 直史 記)

◇令和元年度防衛大学校同窓会決算書(令和2年3月31日現在)

令和元年度一般会計収支計算書

令和2年3月31日現在

【単位：円】

区分	事業等	01年度予算	01年度決算額	差異	備考	
収入	同窓会費	25,370,000	24,211,900	-1,158,100	63期 392名、個別4名	
	預貯金利息・国債利息	1,496,000	1,636,994	140,994	国債利息増	
	雑収入	1,790,000	259,290	-1,530,710		
	収入合計(①)	28,656,000	26,108,184	-2,547,816		
支出	母校の充実・発展への寄与	1 各種競技会支援	390,000	491,100	101,100	優勝メダル40万円
		2 期生会発会等支援	700,000	636,704	-63,296	
		3 学生の部隊実習支援	1,060,000	1,004,682	-55,318	
		4 顕彰碑顕花式支援	510,000	613,209	103,209	顕彰碑銘板材料まとめ買い
		5 開校記念祭支援	2,070,000	2,186,600	116,600	支援金200万円
		6 校友会対外活動支援	1,000,000	1,000,000	0	団体30、個人33、海外遠征(サンドハースト含む)3
		7 学術向上策支援	185,000	225,241	40,241	防衛学特論優秀研究への副賞
		8 同窓会著作等の寄贈	50,000	68,392	18,392	
		9 国際交流支援	1,100,000	517,113	-582,887	支度金、留学生謝恩会中止
		10 士官候補生ラグビー支援	1,500,000	2,165,002	665,002	支援金、器材輸送・設置費等
		小計(②)	8,565,000	8,908,043	343,043	
	会員相互の親睦交流	11 同窓会ホームページの運営	450,000	386,786	-63,214	年間サポート費261,600円
		12 会員の慶弔業務	700,000	345,561	-354,439	物故者数94名
		13 各種競技大会による交流	360,000	223,428	-136,572	ゴルフ・囲碁 各5万円
		14 地域支部等への助成	520,000	212,526	-307,474	5コ支部、小原台クラブ×2回 3万円/支部等
		15 卒業留学生との交流	30,000	10,910	-19,090	事務局員の防大往復交通費のみ
		16 HVD支援	330,000	309,280	-20,720	43期
		17 HCD2支援	80,000	105,108	25,108	8期
		18 HCD支援	380,000	310,890	-69,110	21期
19 講演会・懇親会の実施		3,730,000	6,840	-3,723,160	講演会・懇親会中止連絡ハガキ等	
	小計(③)	6,580,000	1,911,329	-4,668,671		
社会活動への寄与	20 安全保障講座支援	100,000	110,000	10,000		
	小計(④)	100,000	110,000	10,000		
会務運営基盤の充実	21 代議員会の実施	900,000	591,628	-308,372	議案書、案内、中止案内印刷通信費	
	22 同窓会名簿の維持	50,000	29,420	-20,580		
	23 期生会名簿の作成支援	40,000	70,000	30,000	28期、31期	
	24 地域支部等の活性化	200,000	1,242	-198,758		
	25 会費納入の促進	730,000	491,286	-238,714		
	26 防医大同窓会との交流	50,000	45,060	-4,940		
	小計(⑤)	1,970,000	1,228,636	-741,364		
検討事項	27 防大「高みプロジェクト」への貢献の在り方	25,000	0	-25,000		
	28 海外支部等の活動促進	30,000	0	-30,000		
	29 会員の活動促進	60,000	0	-60,000		
	小計(⑥)	115,000	0	-115,000		
維持管理	事務費	700,000	724,387	24,387		
	通信費	350,000	292,866	-57,134		
	交通費	550,000	503,260	-46,740		
	会議費	200,000	287,411	87,411		
	事務員雇用費	1,584,000	1,584,000	0		
	事務所賃貸費	5,410,000	5,391,132	-18,868		
	小原台事務局運営費	150,000	276,169	126,169	写真展示用イーゼル32台、高圧洗浄機	
	小計(⑦)	8,944,000	9,059,225	115,225		
	支出計(⑧=②+③+④+⑤+⑥+⑦)	26,274,000	21,217,233	-5,056,767		
	予備費(⑨)	2,382,000	0	-2,382,000		
	支出計(⑩=⑧+⑨)	28,656,000	21,217,233	-7,438,767		
	収入総計(①)	28,656,000	26,108,184	-2,547,816		
	支出総計(⑩)	28,656,000	21,217,233	-7,438,767		
	資産への繰入額(⑪=①-⑩)	0	4,890,951	4,890,951		

寄付会計

令和2年3月31日現在

【単位:円】

区分	項目	予算額	決算額	差異	備考
寄付	収入				
	寄付金（第1期期生会より）	0	392,666	392,666	保安大学校記念碑建立事業費の残金
	寄付金（第1期期生会より）	0	123,000	123,000	期成会活動終了に伴う清算金
	収入計（①）	0	515,666	515,666	
	支出				
	支出計（②）	0	0	0	
	資産への繰入額（③=①-②）	0	515,666	515,666	

資産への繰入額の合計

令和2年3月31日現在

【単位:円】

項目	予算額	決算額	差異	備考
一般会計からの繰入額	0	4,890,951	4,890,951	
寄付会計からの繰入額	0	515,666	515,666	1団体
資産への繰入額の合計	0	5,406,617	5,406,617	

◇令和3年度期生会長・代議員名簿(令和3年4月1日現在)

期	期生会会長		代議員			業務幹事	
	氏名	要員	陸：氏名	海：氏名	空：氏名	氏名	要員
1	深山 明敏(※)	陸					
2	高岩 利彦(※)	陸					
3	西元 徹也	陸	及川 雅道	手塚 正水	出口 哲夫	野本 眞二	陸
4	田中 厚彦	空	金田 孝之	藤岡 瑩	今西 邦大	藤田 健作	陸
5	福地 建夫	海	浅野 勇蔵	冨 一郎	齋藤 賢爾	浅野 勇蔵	陸
6	阿部 英輔	陸	池田 勝	福塚 啓二	星野 元宏	福塚 啓二	海
7	山本 安正	海	安藤 正武	高木 基博	伊藤 文夫	落合 峻	海
8	古澤 忠彦	海	廣澤 澄晴	梶浦 邦夫	甲斐 聖彦	矢島 寛三	海
9	藤田 幸生	海	小島 捷利	長崎 嘉徳	日高 久萬男	吉橋 誠	陸
10	嶋野 隆夫	陸	嶋野 隆夫	坂東 勝昭	川田 哲雄	嶋野 隆夫	陸
11	石川 亨	海	洞澤 佳廣	竹村 訓	赤羽 益三	阿保 文敏	陸
12	小早川 達彦	陸	藤本 四郎	串田 貫治	橋本 康夫	新倉 修	陸
13	牧本 信近	海	篠田 芳明	新宮領 篁	花岡 芳孝	寺口 聡	海
14	岡 俊彦	海	寄田 修	齋藤 隆	稲葉 憲一	有井 一弘	空
15	林 直人	陸	瓦谷 育夫	平山 為祥	江口 啓三	佐藤 誠喜	陸
16	折木 良一	陸	石川 由喜夫	橘 恒紀	堀 好成	石川 由喜夫	陸
17	赤星 慶治	海	廣瀬 誠	赤星 慶治	永田 久雄	石村 澄雄	海
18	杉本 正彦	海	植木 美知男	谷村 文雄	長尾 齊	谷村 文雄	海
19	岩崎 茂	空	師岡 英行	宮浦 弘兒	下平 幸二	風間 敏榮	陸
20	佐藤 貞夫	陸	西村 智聡	加藤 耕司	渡邊 至之	今井 恵治	陸
21	河野 克俊	海	荒川 龍一郎	山本 高英	小野田 治	山本 高英	海
22	宮下 寿広	陸	田原 昭彦	松下 泰士	福井 正明	石野 貢三	空
23	岩本 豊一	陸	藤井 貞文	福本 出	清藤 勝則	岩崎 親裕	陸
24	杉山 良行	空	武内 誠一	原田 哲郎	半澤 隆彦	武内 誠一	陸
25	高鹿 治雄	海	岡部 俊哉	河村 正雄	吉田 浩介	徳丸 伸一	海
26	尾上 定正	空	深津 孔	堂下 哲郎	尾上 定正	山口 浩樹	空
27	小林 茂	陸	小林 茂	副島 尚志	橋本 尚典	小林 茂	陸
28	田浦 正人	陸	田浦 正人	真鍋 浩司	渡邊 博史	田浦 正人	陸
29	馬場 邦夫	陸	中村 浩之	中尾 剛久	長島 純	時藤 和夫	空
30	堀切 光彦	陸	山崎 繁	時久 寛司	竹平 哲也	篠原 啓一郎	陸
31	前田 忠男	陸	山口 和則	今村 靖弘	後藤 雅人	山口 和則	陸
32	阿部 睦晴	空	池田 頼昭	梶元 大介	柴田 利明	植村 茂己	空
33	中塚 千陽	空	山根 寿一	齋藤 聡	沖野 克紀	沖野 克紀	空

※指定窓口会員

(続き)

期	期生会会長		代議員			業務幹事	
	氏名	要員	陸：氏名	海：氏名	空：氏名	氏名	要員
34	佐藤 信知	空	荒井 正芳	大西 哲	小笠原 卓人	小笠原 卓人	空
35	稲月 秀正	空	戒田 重雄	伍賀 祥裕	吉村 一彦	熊谷 三郎	空
36	寺崎 隆行	空	松永 浩二	石巻 義康	寺崎 隆行	松永 浩二	陸
37	宇佐美 和好	空	小川 隆宏	浦口 薫	宇佐美 和好	宇佐美 和好	空
38	石井 浩之	空	浅賀 政宏	濱崎 真吾	白井 亮次	山崎 武志	空
39	湯下 兼太郎	陸	湯下 兼太郎	平田 利幸	中川 一	湯下 兼太郎	陸
40	清水 徹	海	梨木 信吾	川野 邦彦	石引 大吾	兵庫 剛	陸
41	堤田 和幸	海	小林 貴	堤田 和幸	中谷 大輔	堤田 和幸	海
42	富川 輝	空	村上 諒	佐瀬 智之	富川 輝	山口 景太	空
43	鎌田 淳	空	澤 繁実	戸永 竜太	志津 雅啓	志津 雅啓	空
44	高橋 秀典	海	鈴木 攻佑	阿部 直樹	原田 理	阿部 直樹	海
45	青山 佳史	陸	庄司 秀明	岡澤 智和	坂田 靖弘	庄司 秀明	陸
46	田村 弘範	海	石岡 直樹	近藤 太郎	寺林 洋平	向 康司	海
47	吉水 憲太郎	陸	清田 裕幸	笠原 健治	中里 悠花	清田 裕幸	陸
48	和田 嵩一	海	桐谷 高弘	柏木 祐一郎	齋藤 真吾	柏木 祐一郎	海
49	山上 剛史	空	松浦 秀俊	小沼 洋祐	山上 剛史	山上 剛史	空
50	吉井 拓也	陸	益田 一字	八木 佑己	阿部 竹浩	益田 一字	陸
51	鬼塚 勇	陸	鬼塚 勇	林 大佑	森嶋 倫	鬼塚 勇	陸
52	成田 優	陸	成田 優	岡田 航	荒木 敬	成田 優	陸
53	濱田 卓	空	江嶋 宏次	松崎 圭祐	来栖 克則	濱田 卓	空
54	金澤 慧人	空	角丸 公康	垣内 隼斗	内藤 昌孝	金澤 慧人	空
55	若月 豪	陸	若月 豪	中村 友哉	加治 政樹	若月 豪	陸
56	松尾 聡一郎	陸	松尾 聡一郎	田中 結貴	舟津 貴正	松尾 聡一郎	陸
57	我妻 国明	陸	久保 翔平	裕村 駿明	大藪 秀斗	我妻 国明	陸
58	河合 真	海	秋島 一弥	浦山 修太郎	河野 健	河合 真	海
59	屋代 昌也	陸	渡邊 一生	馬渡 淳司	宮川 啓一	屋代 昌也	陸
60	浜野 広大	陸	田村 洋人	畠山 尚己	庄司 和正	今尾 友哉	陸
61	久米井 勇馬	空	池上 好古	神作 友陽	工藤 将人	松本 龍二	海
62	上中 龍基	空	神木 康誠	唐川 航輝	江打 諒馬	熊木 礼於奈	陸
63	武石 太一	海	筒井 健司	笠原 豪	久保田 祥平	舟林 翼	陸
64	梅村 利海	陸	須田 悠介	森田 雄也	岡野 七海	門馬 明富	陸
65	吉田 敦	海	横山 慶次郎	坂東 涉伍	山本 悠馬	小俣 裕紀	陸

◇令和3年度同窓会本部役員名簿(令和3年4月1日現在)

職名		氏名	期	要員
会 長		岩田 清文	23	陸
副会長		磯部 晃一	24	陸
		村川 豊	25	海
		吉田 浩介	25	空
	[統合幕僚長]	山崎 幸二	27	陸
理事	【事務局長】	山之上 哲郎	27	陸
		佐藤 誠	26	海
		小野 賀三	26	空
	[防大教授]	後藤 啓次	28	陸
	[統幕総務部長]	鳥海 誠司	34	陸
	[陸幕監理部長]	徳永 勝彦	36	陸
	[海幕総務部長]	梶元 大介	32	海
	[空幕人教部長]	小笠原 卓人	34	空
会計監事		川上 幸則	25	陸
		増田 潤一	26	陸
		小島 昌二	26	海
		池畠 暢也	26	空

◇令和3年度地域支部等役員名簿(令和3年4月1日現在)

所属支部	役職	氏名	期	要員
北海道地域支部	支部長	加藤 幸治	14	陸
	事務局長	宮本 真也	41	陸
東北地域支部	支部長	赤坂 徹	17	陸
	事務局長	浅川 紀明	25	陸
栃木地区支部	支部長	正岡 富士夫	15	空
	事務局長	正岡 富士夫	15	空
群馬地区支部	支部長	石橋 輝治	5	陸
	事務局長	小島 健二	14	空
北陸拡大地区支部	支部長	濱谷 隆平	6	陸
	事務局長	西川 清	15	陸
東海拡大地区支部	支部長	赤谷 信之	13	陸
	事務局長	横山 昌宏	22	陸
関西地域支部	支部長	酒井 健	19	陸
	事務局長	大島 龍一朗	31	陸
鳥取地区支部	支部長	吉岡 元	10	空
	事務局長	山本 洋	21	陸
島根地区支部	支部長	西村 充雄	25	陸
	事務局長	持田 佳郎	13	陸
岡山地区支部	支部長	高橋 正憲	6	空
	事務局長	永岑 富彦	10	陸
広島地区支部	支部長	加藤 紀夫	15	海
	事務局長	土肥 弘実	25	海
山口地区支部	支部長	前田 房彦	13	空
	事務局長	山下 重夫	16	陸
四国拡大地域支部	支部長	今村 功	15	陸
	事務局長	高木 照男	21	陸
徳島地区支部	支部長	福田 忠典	11	陸
	事務局長	山崎 忠雄	19	陸
香川地区支部	支部長	宇草 茂	18	陸
	事務局長	高木 照男	21	陸
愛媛地区支部	支部長	瀬川 紘一郎	10	海
	事務局長	森川 建司	22	陸
高知地区支部	支部長	今村 功	15	陸
	事務局長	川田 公一	16	空

(続き)

所属支部	役職	氏名	期	要員
九州地域支部	支部長	野田 文久	24	陸
	事務局長	田代 勉	25	陸
福岡地区支部	支部長	木崎 俊造	20	陸
	事務局長	末廣 治之	21	陸
佐賀地区支部	支部長	福井 秀平	23	陸
	事務局長	福岡 龍一郎	26	陸
長崎地区支部	支部長	大平 慎一	16	海
	事務局長	広井 豊明	21	海
熊本地区支部	支部長	佐藤 晃章	19	陸
	事務局長	長尾 民穂	19	陸
大分地区支部	支部長	藤田 太	20	陸
	事務局長	加来 仁信	23	陸
宮崎地区支部	支部長	大岐 継寛	15	陸
	事務局長	金丸 直史	19	空
鹿児島地区支部	支部長	柴村 敬二	18	陸
	事務局長	樺山 一孝	29	陸
沖縄地域支部	支部長	渡名喜 邦夫	21	海
	事務局長	金子 賢太郎	55	空
小原台クラブ	会長(支部長)	長谷川 礼司	17	空
	事務局長	及川 正稔	28	陸
桜華会	会長(支部長)	塚口 千枝(平松)	40	陸
	事務局長	嶋津 悠加(黒田)	45	空

◇令和3年度事務局員名簿(令和3年4月1日現在)

職 名		氏 名	期	要員	
総 務	部 長	河本 宏章	28	陸	
	副部長	畠野 俊一	28	海	
		飯田 重喜(兼)	28	陸	
	補 佐	総 務	平栗 浩一	29	陸
		新規事業	森竹 賢全	29	海
		国際交流	馬場 邦夫	29	陸
	担 当	総 務	山坂 泰明	30	陸
		国際交流	兒玉 豊	30	陸
浅岡 哲史			30	海	
		坂尾 陽子		常勤	
人 事	部 長	佐々木 博茂	28	陸	
	補 佐	後藤 一郎	29	陸	
		渡辺 辰悟	29	陸	
	担 当	古賀 安彦	30	陸	
		淵崎 直樹	30	海	
		宮本 裕徳	30	空	
経 理	部 長	橋口 信吾	29	海	
	副部長	間瀬 元康	28	陸	
	補佐(特定事項)	大林 一洋(兼)	29	海	
		小山 武徳	30	空	
	担 当	浦野 与志生	30	陸	
事 業	部 長	飯田 重喜(兼)	28	陸	
	副部長	平野 剛	28	陸	
	補 佐	HCD/HVD	重信 勝利	29	陸
		HCD2	荻原 洋聡	29	海
		囲碁等	大林 一洋(兼)	29	海
		テニス/支部	松宮 康一郎	29	空
		ゴルフ/講演	西村 弘文	29	空
	担 当	HCD/HVD	大西 正浩	30	陸
		HCD2	川原 梅三郎	30	海
		囲碁等	時久 寛司	30	海
		テニス/支部	森末 浩史	30	空
		ゴルフ/講演	益子 卓	30	陸
	広 報	部 長	白井 一弘	28	陸
副部長		相原 武士	28	空	
部顧問		村田 和美	17	陸	
補 佐		人材バンク	坂間 輝男	29	陸
			鶴見 知樹	29	陸
		機関紙	大嶋 基司	29	空
			佐々木 輝幸	29	海
		H P	時藤 和夫	29	空
			大森 俊之	29	陸
担 当		人材バンク	穂村 佳和	30	陸
			荒川 純一	30	海
		機関紙	野崎 忠明	30	陸
			池田 五十二	30	空
		H P	岩崎 仁彦	30	空
	中津 敏文		30	陸	

◇令和3年度小原台事務局員名簿(令和3年4月1日現在)

部	役 職	氏 名	期別	要員
小原台 事務局	事務局長	北川 英二	36	空
	事務局長代理	中澤 信一	28	海
		村上 強一	31	空
		三宅 由晃	43	陸
		川瀬 広海	35	陸
	各部調整担当	時吉 誠	43	空
		岩切 宗利	37	陸
		杉本 真規	51	空
	事務局長補佐			
	事務局員	中澤 信一(兼)	28	海
		村上 強一(兼)	31	空
		小堀 紀子	40	海
		三宅 由晃(兼)	43	海
川島 隆志		36	海	
出口 紋子		54	陸	

◇会則等改正(防衛大学校同窓会ホームページの管理運営及びサイバーインシデント対応に関する細則)

防衛大学校同窓会ホームページの管理運営及びサイバーインシデント対応に関する細則

細則第12号

防衛大学校同窓会会則第38条に基づき、防衛大学校同窓会ホームページ(以下「HP」という。)に関する管理運営及びサイバーインシデント対応のため必要な手続き事項を定める。

(組 織)

第1条 本部事務局広報部にHP管理者及びHP各担当を置き、同窓会HPの管理運営及びサイバーインシデント対応を担当させる。

第2条 同窓会HPに関する責務は次のとおりとする。

(1) 広報部長

事務局長の指導の下、同窓会HPの管理運営及びサイバーインシデント対応の総括業務を行う。

(2) HP管理者

部長補佐(HP担当)は、HP管理者として、同窓会HPの制作、掲載、更新及び削除(以下「制作等」という。)、bodaidsk.comドメインのメール(以下「メール」という。)の管理に関する業務、並びにサイバーインシデント対応の業務全般を行う。

(3) HP各担当

HP各担当はHPに関する以下の業務を行う。

ア HP担当

HPの制作・掲載等、メールの管理及び事務局で使用するIT機器等に関すること

イ 同窓生人材バンク担当

人材バンクに関すること

ウ フォトギャラリー担当

フォトギャラリーに関すること

エ 機関紙担当

小原台だよりに関すること

オ 防衛大学校同窓会facebook担当

防衛大学校同窓会facebookに関すること

カ その他

必要に応じて広報部長所定とする。

(4) 本部事務局各部及び小原台事務局

本部事務局各部及び小原台事務局(以下「各部等」という。)の記事原稿担当は、別に定める「HP記事作成計画」に基づき、各記事原稿を作成する。

- (5) 各コミュニティサイトの管理者(地域支部等、期生会、校友会OB、その他学科OB会)
各コミュニティサイトのHPの管理に関するを行う。

(HP記事作成計画)

第3条 HP管理者は、総務部が作成する各種行事への参加・随行予定、事業部の事業実施予定等に基づき、HP記事作成計画を作成する。HP記事作成計画は別に示す。

(HPの構成)

第4条 同窓会HPのサイト構成は次を基準とする。

- (1) Home(Top page)
- (2) Pick up News
- (3) News & Topics(お知らせ)
- (4) 会長ルーム・活動録
- (5) 防衛大学校同窓会とは
- (6) 活動報告
- (7) コミュニティサイト
- (8) フォトギャラリー
- (9) 同窓会会員への連絡
- (10)同窓会人材バンク
- (11)会議室予約
- (12)小原台だより
- (13)防衛大学校同窓会facebook
- (14)連絡先
- (15)サイトマップ

(制作等手続)

第5条 同窓会HPへの記事等の制作等は次のとおりとする。

- (1) 事業計画に基づく同窓会及び防衛大学校の行事に関しては、「HP記事作成計画」に基づき、各部等がHP担当に記事原稿を提供する。
- (2) 上記のほか、本部事務局の企画、地域支部、本部直轄支部、海外支部、期生会及び会員個人からの依頼に基づく記事等の作成については、同窓会本部業務分担に準じて記事作成を行い、必要に応じ、HP管理者が各部等の長と調整して担任を決める。これにより難しい場合には、事務局長が定める。
- (3) 同窓会HPへの掲載及び部外へのリンクについては、HP管理者に届け出て、一水会で審査し、事務局長の承認を得るものとする。なお、防衛大学校、防衛省等官公庁を除く、部外へのリンクについては、防衛省・自衛隊及びHP掲載記事等に関連する場合に限り設定できるものとする。

- (4) 記事を掲載する際は、表示画面をHP管理者が確認した後、広報部長の承認を得て公開するものとする。
- (5) コミュニティサイトへのHP設置を希望する場合は、設置希望団体の代表者から、新設HPの管理者とその連絡先(メール)を定めて事務局長に申請し、承認を得るものとする。
- (6) その他必要な事項は、広報部長が定める。

(記録・保管)

第6条 同窓会HPの記録・保管は次のとおりとする。

- (1) HP管理者は、契約業者等と協力してHPに掲載された記事等を保管する。
- (2) HPへのアクセス数等を掌握、記録し、HPの活用に資する。
- (3) コミュニティサイトの管理者等の最新の情報を掌握する。
- (4) その他必要な場合は、所要の措置を行う。

(個人情報保護)

第7条 同窓会HPへの記事の掲載に際しては、「個人情報保護に関する法律(平成15年5月31日法律第57号)」及び防衛大学校同窓会「個人情報保護方針(平成30年4月18日)」に基づき、個人情報の保護に留意する。

(改善・充実)

第8条 あらゆる機会をとらえ、同窓会HPの改善・充実のための意見を集計し反映させる。この際、HP制作等に関する新たな手法・技術の導入については、その要領について一水会で審査し、事務局長の承認を得て、所要の措置を行うものとする。

(メール管理)

第9条 HP管理者の行うメールの管理業務は次のとおりとする。

- (1) 事務局員等交代、メールアドレス変更等の場合の登録、削除、変更を行う。
- (2) メールを使用した情報共有の要領等の徹底及び迷惑メール等に対する所要の処置を行うとともに、改善・充実に努める。
- (3) アカウントについて次のとおり管理する。
 - ア アカウントの管理
設定、変更、削除等
 - イ パスワードの管理
設定、変更等
 - ウ 関連情報の提供
不審なメールの注意喚起、機能強化のお知らせ等
 - エ アカウント別機能制限の設定
メール転送、自動返信、迷惑メールフィルタ等
 - オ 迷惑メール検知管理の設定
利用アカウント設定、判定処理の設定等

(サイバーインシデント対応)

第10条 サイバーインシデント対応を次のとおりとする。

(1) 広報部長をサイバーインシデント責任者、部長補佐(HP担当)を補助者とする。同補助者が関係者からサイバーインシデントの疑いについて通報を受けた場合は、広報部長に報告するとともに、速やかに必要な措置を講ずるものとする。広報部長が事態をサイバーインシデントと認定した場合には、事務局長に通知するとともに、必要に応じて関連業者等と協議し次の事項を実施する。

ア インシデント状況の把握

イ 状況の推移を記録するとともに優先順位をつけて復旧等の処置

ウ 影響を受ける同窓会関係部署に通知するとともに、部外に影響があると考えられる場合には必要に応じて関連部署等への通報

エ ログ等の収集及び保管

オ パスワードの変更等再発防止に必要な処置

カ 同窓会が関連するSNS等については、これに準じた処置の実施

キ その他必要な事項は、広報部長が定める。

(2) 各部等の事務局員は、メール及びHPの動作異常等、サイバーインシデントの発生を認めた場合あるいはその疑いがある場合、HP管理者へ通報する。

(3) 各コミュニティサイトの管理者は、HPの動作異常等、サイバーインシデントの発生を認めた場合あるいはその疑いがある場合、HP管理者へ通報する。

(実施要領)

第11条 事務局長は、同窓会HPの管理運営及びサイバーインシデント対応に必要な各種「実施要領」を定めることができる。

付 則

本細則は、令和3年2月4日から施行する。

■編集後記

令和2年度機関紙「小原台だより」は、新型コロナウイルス感染の影響で多くの同窓会行事が縮小又は中止となり、従来よりも記事も量的に目減りせざるをえませんでした。ホームページにご寄稿頂きました方々をはじめ、各行事及び事業にご協力を頂きました多くの皆様方のご支援を頂き、発刊することができました。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

今回の「小原台だより」第28号は、電子版として第6号の発刊となりました。引き続きホームページのアーカイブとして、記録保存の意義を重視し、同窓会の年度の総括として役立つように努めて参ります。

今後とも電子版「小原台だより」のご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

(防衛大学校同窓会本部事務局 機関紙担当記)